

【研 究】

「ラテンアメリカ社会経済史」の 研究と方法

——とくにブラジルを中心として——

今西正雄—M. クレスポ

「序説」——ラテン・アメリカ社会経済史の 重要性について

現在の歴史学は、それが一般史であれ社会経済史であれ、世界史学でなければならぬといわれている。この「世界史学」の構想は、既に19世紀の中葉、近代史学の鼻祖といわれるニューブールによって主張され、その後おおくの史学者また社会経済史学者によって強調されたところである。

しかし、第二次大戦後までの「世界史学」はだいたいの史学的理念にとどまって具体的事象の世界史形成は著しく停滞していたといつてよく、そこには理念と現実におおきな乖離が存在したことは否定できない事実であった。それが第二次大戦を経て1960年を前後する世界各地の植民地の独立を契機に具体的事象としての世界史が各民族を中心に展開し、「世界は一つ」の合言葉のもとに、「世界史学」の再検討と再建が強く要請されることになった。より具体的には第一世界の「先進的諸国」、第二世界の「社会主義諸国」さらに第三世界としての「発展途上諸国」の個別史的また比較史的研究、そしてこれを統括的に「世界史」として観察せんとする動きであり、それが現在の主項目となりつつあるのを感じるのである。

それにつけ過去の史学また社会経済史学にあつては西ヨーロッパ諸国の研究に余りに重点がおかれ、その反面いわゆる第三世界史の研究が軽視された嫌があつた。現に西ヨ

ヨーロッパ諸国が、かの地理的大発見を契機に過去の異質的な封建社会から脱皮して一応共通的な社会体制としてのアンレシジョン・レジームに発展する過程にあらわれる重商主義研究、さらにこれを否定して展開される近代資本主義の研究についても、またその後には登場する帝国主義の研究も殆んど第一世界を対象とし、その諸影響を受ける、今日のいわゆる第三世界の史的 연구はきわめて限定された範囲にとどまったことである。これはあたかも「楯」の表面のみを観察して、その「裏面」を見ないのに等しく、いわば現在の「世界史研究」にとって甚しい不均衡あるいは独断的史観というほかないものである。

ところが、1960後の世界は「第一世界」と並んで「第三世界」の史的 analysis が激しく要求され遅れ走せながら、今日ようやくこれを対象とする段階にきたのである。具体的には現在「後進的發展途上国」としての東洋、ただし日本を除く、全南米および近東・アフリカ諸国の史的 research が世界的課題として登場してきたことである。

この「第三世界」を近世世界史の一環としてとり上げるとき、就中注目されるのはラテン・アメリカ史とその研究であって、それは単に地理的立場においてではなく、西ヨーロッパに發展した「重商主義—資本主義—帝国主義」のあらゆる波動を正面から受け取ることを強制された地域および民族としてであって、敢ていえばイギリスに結実した資本主義の發展と完成の一半の負担はあげてラテン・アメリカに賦課されたとみられるのである(註)。

この意味において、いまラテン・アメリカを世界史の一環として把え、その史的發展過程を吟味せんとするのであるが、方法論的には、同地域の研究がなお初歩的段階—ことに日本学界—にあるのに省みて、〔I〕ラテン・アメリカ社会経済史年表の作成、〔II〕1500～1960に至る植民地制度、人種のカスト制さらにヨーロッパ資本主義下の諸資料と欧米帝国主義化の資料とくに外国資本の圧迫、またラテン・アメリカ自体におけるモノカルチャー経済と大土地所有制などを要的に掲げ、〔III〕最後に主要諸文献を示すことにした。

(註) 西ヨーロッパの海洋發展は次の如き史的経過をもっている。

1500 (重商主義時代)…1780 (資本主義時代)…1860 (帝国主義時代)…1960—[ラテン・アメリカの植民地化]→[インド—中国]へ進出と植民地化。[ラテン・アメリカ独立]→[アフリカの分割]→[全植民地の独立]

なお、この研究は東京外大容員教授M・クレスポ氏の協力、とくに年表および諸文献の選択などに関し多大の示唆を受け、むしろ共同研究の成果であるとともに、以前発表した「ラテン・アメリカ社会経済年表」(同志社大学経済学論双、第十九巻第二号)一の補正、改訂でもある。

本論 [I] 「ラテン・アメリカ社会経済史」年表

ラテン・アメリカは22カ国から形成され、それを一つ一つ研究することはほとんど不可能に近い。そこで、ラテンアメリカ地域の主要あるいは指導的国家を中心に、その社会経済史を研究せんとするのであるが、これを以下のように限定する。

- (1) 中南米をメヒコで代表せしめる。
- (2) 南米のアンデス地域—とくに太平洋岸およびカリブ地域—をコロンビア、ベネズエラおよびチリによって代表せしめる。
- (3) ラ・プラタ地域をアルヘンチナで表示する。
- (4) 最後に大西洋岸をブラジルに求め、やや詳細に検討する。

かような区分は恣意的になしたのではなく、その自然的、歴史的諸条件がそれぞれ異なるうえ、現在の動向もこれら四地域がそれぞれの特徴をもって顕現しているからである。

また、最後にあげる「研究のための語文訳」は今日の日本の大学における語学力を参照して、まず日本語—英語—その他の順序で示し、若干の解説をつけ、極力ラテン・アメリカの理解を進めんとしたものである。

「年表」の作成に当って使用した語文献については、「年表」の最終欄で示すこととして、次の諸記号をもって国名または諸地域を表すものとした。(葡)=ポルトガル、(西)=スペイン、(伯)=ブラジル、(ラ)=スペイン領アメリカ、米国=北米合衆国。

なお、人名についての発音はできるかぎり原音、たとえば Carlos=カルロス、Pedro=ペードロその他、さらに Mejico (Mexico)=メヒコ、Argentina=アルヘンチナなどを用いることにしたが、他方あまりに一般的な発音となっているものについては英語音、たとえば Columbus (=Colón)=コロンブス、Magellan (=Magallanes)=マゼラン、Spain (=España)=スペインとした。

(年次)

歴 史 事 項

- 西暦前 (B.C.) (イベリア半島およびラテン・アメリカを中心)
- B.C. 178—A.D. 409 イベリア半島はローマ領となり、その支配つづく。
- 466—711 西ゴード王国時代。

- 711-1031 イスラム教徒はイベリア半島を征服し、ウマイヤ朝を樹立する。キリスト教徒は北西部およびピレネ地方の一部を辛うじて維持する。
- 718 キリスト教徒は宗教騎士団を結成し、フランス王国の支援を得て国土回復運動（レコンキスタ）をはじめめる。
- 1015 (葡) フェルデナンドはイスラム教徒を撃退する。
- 1112-85 (葡) 宗教騎士団長（十字軍）アルフォンゾ・エンリッケはポルトガル王国の基礎をつくり、ポルトガル王と称するが、スペインのカスティーリャと争う。
- 1143 ポルトガルの独立はぼなる。なお当時（1096-1192）は十字軍の最盛期で、その支援をうける。
- 1212 (西) カスティーリャ王国はイスラムに決定的勝利を獲る。
- 1280 (葡) ポルトガルは貴族、教会そして商人団による海洋貿易を開始する。
- 1375 (葡) 土地制度に関する「セズマリア法」を制定する。
- 1385 ポルトガル王国の完全独立なる。
- 1410-60 (葡) エンリッケ航海親王は、大西活躍諸島およびアフリカ西沿岸に探検隊を派遣し、その沿岸を次々に占有する。スペインもしだいに活動をはじめめる。
- 1453 東ローマ帝国の滅亡は西洋と東洋の航路を断絶する。
(西) この頃、都市住民には市民的特権（Fuero）が与えられ、しだいに擡頭する。
- 1469 (西) カスチル女王イサベル＝アラゴン王フェルナンド（宗教騎士団の総団長）と結婚し、間もなくスペイン王朝を開くが、両者は互に平等の権利をもつ。
- 1482 (西) 異端にたいする「宗教裁判所」設立される。
- 1485-1509 イギリスにあってはヘンリー七世チュドアー王朝を建設し、しだいに絶対王制に向う。
- 1492 (西) イスラム教徒の首都グラナダ陥落し、イスラム教徒の脅威去り、国土回復戦終る。

- 1492 (西) カステルの女王イサベル, 諸貴族, 教会および商人団はコロンブスの探検計画を採りあげ, その探検を押し進め, ついに新世界を発見する. コロンブスはコンキスタドールとなる.
- 1493 教皇アレキサンドレ四世は(西)と(葡)の海外国境の裁定を行うが, その他の諸国は不満を抱く.
- 1494 「トルデセヤス条約」により, 両国間の国境決定される. (葡)は西方の海上国境線を約 370 レグア (約 1 レグア=5.555 軒) 拡大し, このなかに将来のブラジル含まれる.
- 1497-98 (葡) V・ダ・ガマはアラブ商船隊を排除し, インドのカリカットに到着, 多くの東洋商品を持ち帰る. この頃(西)新大陸に方面最初の植民地をサント・ドミンゴに建設する(1498).
- 1500 (葡) カブラルは確実にブラジルを発見する. 当時はサンタ・クルスと呼ばれる. なお彼はインドにも航海し貴重な商品, 胡椒をおびただしく持ち帰る.
- 1501 ラテン・アメリカへの黒人奴隷貿易はじまる.
- 1502 (葡) アメリコ・ヴェスプシイはブラジル沿岸を探検し, サン・ヴィセンテに基地を建設するとともに「パウ・ブラジル」を持ち帰り商品化する. その後は彼の名をとり新世界は「アメリカ」と呼ばれる. なお, 当時インド貿易が重視され, ブラジルは放置される. しかし, ヨーロッパ諸国とくにオランダ, イングランド, フランスなどは非常な刺激を受け「海洋ラッシュ」はじまる.
- 1503 (西) イサベル女王はスペイン領アメリカに同国のエンコミエンダ制(一種の委託制)を認可する. 同時に通商院設置される.
- 1504 フランス艦隊(ルイ十二世の治下)は新大陸の沿岸に出没する.
(葡)政府はブラジル奥地に最初の探検隊(エントラダ=Entrada)を送る.
- 1504-30 (葡)探検隊の影響でブラジル大陸の占有急速に進む. なお, 大西洋側のインディオはだいたい狩猟民族で海岸地帯にはチョピス, 奥地にはタピィアス種族が住だ.

- 1509-47 イギリスのヘンリー八世の治世—絶対王制の確立、修道院解散・(宗教改革)そして海軍力を育成し海洋活動を開始する。
- 1512 (西) 新大陸のインディオ保護のため「ブルゴス法」を制定するもののほとんど無視されるが、現地におけるインディオの西長その他上層階級には従来の制度(貢納)と権利を許し、土地共有制(Ejido)は宗教裁判法により認められる。
- 1515-56 (西) スペイン国王カルロス一世は「神聖ローマ皇帝」に即位し、カルロス五世と称する。しかし、彼の背後また財政の管理は西南ドイツの巨商とくにフッカ家に任せられる。フッカ家は新大陸(ベネズエラ)に投資する。
- 1517 マルテン・ルター—宗教改革—宗教戦が勃発し、スペインの財政負担は急増する。(ラ) この頃より新大陸の開拓に伴う労働力補給のため黒人奴隷貿易盛んとなる。
- 1519-22 (西) マゼランの世界一週により「地理的大発見時代」は一応終り、新大陸の植民地化はじまる。(西) コルテスはアステカ族、マヤ族(現代のメヒコ地方)を征服する。
- 1519-56 (西) カルロス五世の治下、スペイン王室を中心とする重商主義政策組織化される。
- 1520 (ラ) 新スペイン(Nueva España—後のメヒコ)の「アデランタード(総督)コルテス」は黒人奴隷を大量に輸入しインディオの労働力と結合し開拓事業を著しく拡大する。(西) スペイン本国においては新大陸に完全な主権の植民地行政を実施するため、機関として正式に「通商院 Casa de Contratación」および「新大陸枢機会議 Concejo de Indios」を設置するほか、教会の普教運動に多大の支援を与える。
- 1524-35 (西) ピザロはペルーのインカ族を征服し、莫大な貴金属、宝石類を略奪し、本国に送付する。ただし、太平洋岸のインディオはかなりの高度の文明を保持していた。
- 1524-25 ドイツ農民戦争勃発し、西欧の旧体制は激しく批判される。
- 1527 (西) メヒコに王権直属の「アウディエンシア」= 行政機関が設置

- され、これまでの「アデランタードのエンコミエンダ」を規制することになる。
- 1530-1600 (ラ) 中央メヒコに豊富な銀鉱が次々に発見される。
- 1582 (葡) ジョアン三世は十五人の大貴族に「Capitães donatário」を与え、ブラジルに「大名体制」の樹立を意図する。
- 1534 (葡) Doação の最初の特許状がペルナムブーコに与えられ、「カピタニア制（大名制）」の樹立が実施される。
- 1535-38 (西) スペインはメヒコに副王制（Virreinato）を設け、アウディエンシア制を併用して、新世界の植民地化を強化する。なお副王は自動的にアウディエンシアの議長となり、各地区を規制するが、これにたいする各地のアデランタードらは独立を企て種々の内乱発生する。
- 1536 (葡) 「異端」に関する宗教裁判により多数のユダヤ人は資本を持参してブラジルに渡る。その中心地ペルナムブーコは彼らの資本を基盤に奴隷の大市場出現する。当時の白人は約3千人（ほとんどクリオーリョ）と推算され、主に「砂糖、タバコ」の栽培、牧場経営に従事し、家畜輸入も盛んとなるが、労働力の不足は産業発展にたいしますます深刻となる。なお、土地獲得、労働力などをめぐって白人とインディオの衝突各地に勃発する。この頃、欧州には旧教内に強力なイエズス教団結成され、世界普教に従事する。
- 1541 (西) スペインの勢力はアマゾン地域にまでひろがる。
- 1542 (西) カルロス五世は「インド新法」を發布しエンコミエンダとインディオの酷使をさらに制限せんとするが、各植民地（特にメヒコとペルー）に大動乱発生する。
- 1545-48 カルロス五世は「インド新法」を撤回するとともに、各地の反乱を慰撫する。この頃、ボリビアのポトシ銀山およびメヒコのサカテカ銀山などの採鉱大規模となる。これらの産銀は主に欧州に輸入され価格革命を引き起すが、スペインはほとんど戦費に浪費し、却ってイギリス、ネーデルランド、フランスなどに諸産業を勃興せしめる。
- 1548 (葡) ブラジル各地の「カピタニアス」制はほとんど失敗に終るが、

諸外国とくにフランスの侵略にそなえ、新たに「大総督 Govêrno Geral」をバイーアにおく。初代総督トーマ・デ・ソウザが就任し約1千人の殖民(聖職者, イエズス会士, 貴族, 技術者など)を誘致する。その後も、インドオスとの斗争つづくが、その頃より「セズマリア」法がしだいに普及する。

- 1549 (伯) 最初の都市「サルヴァドル」建設され、市会議員としての商人の地位ようやく高まる。
- 1550 (西) スペインはブラジルを除く全南米のほとんどを征服し、さらに北米の太平洋沿岸にも進出し、その勢力は頂点に達す。これにたいしイギリスの私掠船しだいに活発となる。
- 1550 (伯) この頃、欧州での砂糖需要が急増し、その最適栽培地ノルデステ(ブラジルの北東部)は急速に開発され、さらに大土地制の原型と黒人奴隷の輸入が盛んとなる。当時本国の人口は約200万人と推算され、海洋貿易ではインド関係が重視される。なお、黒人奴隷の供給地としてアフリカの西海岸、次いで東海岸がポルトガルによって確保される。
- 1551 イベリア半島の国家は全面的に教会と結合する。
- 1552 (葡) 宗教政策の一端としてバイーアに最初の司教任命される。
- (西) この頃、本国と新世界の間に船隊の定期便が開通し、スペイン穀物、ワイン、水銀、とくに毛織物を植民地に輸出する。このカルロス五世(1519-56)時代こそスペインの勢力が頂点に達した時代であるが、王権の上昇はやがて盲目的な専制主義(貴族および教会を中心)を生み、国内には種々の反乱、農民一揆(パレンシヤ、マホルカおよびアンダルシアなど)が勃発し、さらに市民特権の制限斗争においてハテイバ市(Jativa)など全地域の灰燼による鎮圧など強行される。
- 1554 (伯) サン・パウロ高原では、イエズス会の宣教師たちによって、サン・パウロ市創設される。
- 1555 (伯) リオ・デ・ジャネイロ市も建設される。
- 1558-1603 イギリスの女王エリザベス一世は積極的な海外発展策をとる。ロンドンの「冒険商人団」が活躍の中心となる。

- 1560-90 フランスでは陰惨な宗教戦争がくりかえされる。
- 1568-1648 (西) スペインは新教徒のネーデルランドを攻撃し、オランダの独立（1648）を誘発する。
- 1556-98 (西) フェリペ二世即位し、スペインは全盛期を迎える。彼は絶対主義政策を採り、アメリカ植民地のエンコミエンダの廃止を意図する。
- 1557 (西) フェリペ二世は財政難によりフッカー家への負債支払を中止する。フッカー家は非常な打撃を受け、新大陸への投資を断念する。
- 1570頃 スペイン領アメリカでは副王制と植民地官僚組織に司法官（地方行政と軍事担当—Corregadores）が加わり、その地域開発のため移民を奨励する。
- 1571 (西) レパント海戦によりスペインはアラブに完勝し、海洋権を確立する。この頃、レパルトミエント制（インディオの割当制）施行される。
- 1572-77 (葡) パイアー（後のサルバドール）とリオ・デ・ジャネイロに総督府が設立され、中〜北部地方はようやく組織化される。この頃、ブラジルの中心は北東部にあり、都市の建設、「砂糖」の増産、その背後の奥地には牧夫（ヴァケイロ）を中心に牧畜業など盛んに勃興する。
- 1580-8. 25 (西) アルバ公の軍隊はポルトガルに侵入するが敗戦に終る。
- 1580-1640 (西・葡) ポルトガルの王室アヴィス家の断絶、スペイン王室は継承権によりポルトガルを合併、ポルトガルの東洋海上権は急速に衰退する。同時に、イギリス、オランダは協力してポルトガル領を襲撃する。
- 1581 スペイン戦争を経てオランダは独立宣言をなし、海洋に進出する。
(葡) ポルトガルはスペインの支配下に入り、インド貿易は急激に衰退するとともに、ブラジルの評価高まる。この頃「砂糖産業（engenho de açúcar）」はますます盛大となり、各地に「砂糖貴族」が出現し、同時に強力な家父長制の「カーザ・グランディ Casa Grande」も登場する。砂糖・タバコの輸出増大に比例して黒人奴隷の輸入も累増する。この頃より、スペインの植民地体制がしだいにポルトガルに導入されるが、ブラジルでは、サン・パウロから最初のメスティソのバンデイラス（一部はクリオーリ団＝探見隊）が出発する。

- 1586 (伯) ブラジル南部とラ・プラタ地域間の陸上貿易しだいに活発となる。
- 1587 イングランドの海将F・ドレークはカディス港外でスペイン艦隊を大破する。
- 1588 (西) スペインは大艦隊 (Armada) をもってイングランドを攻撃するが完敗し、その海軍力は急速に低下、代ってオランダ、イングランドが擡頭する。
- 1591 (西・葡) 外国船のブラジル寄港を禁止する。
- 1598 (葡・西) オランダとの通商を禁止するが、オランダはこれを契機に東洋またポルトガル領に積極的な侵入を開始する。
- 1604 (伯) パイアにポルトガル王室直属の最高裁判所が設置され、重商主義政策は強化される。
- 1609 (西・ラ) フィリッペ三世による原住民の「奴隷禁止令」発布されるが、しばらくして取消される。レパルトミエント制を法制化する。
- 1610 イエズス (スペイン系) 教団は、(伯) パラナ州に進出し、各地に教団部落をつくり文化向上に努める。
- 1615 (葡) ポルトガルはフランスの勢力をブラジルから一掃する。バンデイラスのイレティオ狩も活発となる。
- 1618-48 神聖ローマ帝国では三十年戦争勃発し、国際的舞台から退く。
- 1624-54 オランダは「イン西ド会社」を設立しブラジルの砂糖地帯へ侵入、ノルデステを占領し、当地方の砂糖貿易を独占するが、黒人奴隷の逃亡続出する。一別名「砂糖戦争」ともいう。(伯) ポルトガルおよびブラジルは一致協同して、オランダ勢力を駆逐する。この時バンデイラスは大いに活躍する。
- 1638 (西・葡・伯) その間、ペドロ・テイシェイウは探検隊を率いて、アマゾン河を遡り、キトに到着する。
- 1648 (西・葡・伯) アントニオ・ラポーゾ・タパーレスはバンデイラスを率いて、パラグアイに渡り、さらにアンデス山脈を越えて太平洋に着き、そこからアマゾン河を下りサン・パウロに戻る。かくて、バンデイラスの

活動により現在のブラジル領土ほだいたい形成されるが、なお彼らはイエズス会の教化部落をも襲撃し、奴隷狩に従事する。当時メヒコの産銀は急減する。

1640-56 (葡) 本国の進歩的貴族、商人たちはフランスの後援を得てスペインの支配を脱し、ブラガンザ朝を建設し、ジョアン四世即位するが、スペインはこれを承認せず、その後両国間に戦争がつづく。この頃葡人の移民増加する。

1643-1715 フランスのルイ十四世の治世、東西インド会社をつくり、新世界に積極的活動を開始する。これにたいし、ポルトガルはブラジルの植民地体制強化のため「ブラジル特許会社」をつくる（1649）。

1648 ウェストファリア条約成立する。イギリスのピューリタン革命はじまる。

1650 頃 (伯) 黒人奴隷の反乱は頻発し、その逃亡者による奥地に Quilombos 部落が出現する。当時黒人奴隷の年間売買は約1万6千人余に達し、その中心市場はレーシフェである。この頃、アマゾナスの香料もようやく市場に現われる。

1652 オランダはイギリス、次いでフランスに攻撃され、勢力は急激に低下する。(葡) ポルトガルはイギリスと同盟を結びオランダに対抗する。この頃、イギリス市民階級の擡頭とくに著しくなる。

1653 (伯) バンディラスは地主たちと協力してオランダ勢力の打倒に努め、同時に自由独立の精神を養う。

1654 (伯) ブラジルのオランダ勢力は一掃されるが、代ってイギリスの影響が増大する。

1659 「ピレネ平和条約」により、スペインの欧州における勢力は完全に失墜する。

1674 (伯) バンディラスのフェルナン・パイスはサン・パウロからミナス・ジェライス州に向け宝石および金発見に旅立つが失敗に終り死亡する。しかし、彼の義理の息子によって金が発見される。

1676 (伯) バルトロメウ・ブエノ・ダ・シルバはバンディラを率いて、

ゴイアスに着く。この頃、大司教任命がされブラジルに赴任する。

- 1680 (葡) ラ・プラタのウルグアイ側にも、ポルトガル政府は「サクラメント植民地」を創設する。
- 1682 (葡) ブラジルに「マラニオン特許会社」創設される。
- 1688 イングランドに名誉革命勃発し、民主主義が一層進展する。
- 1689 イングランド銀行設立される。
- 1690 頃 (伯) ブラジルの総人口は約 30 万に達し、首都パイアも 3 万人を越える。この頃より以降、葡はブラジル移民を度々抑制する。
- 1693 (伯) バンデirasはミナス・ジェライスの奥地ポルバ・ガトーで金を発見、その所有権はバンデirasに与えられるが、産金には $\frac{1}{6}$ の重税が課せられる。
- 1695 (伯) 総督府は大軍を編成し Quilombos の中心地を攻撃、これを破壊するとともに多数の奴隷を獲得する。この頃、ブラジルに砂糖恐慌が勃発する。
- 1701-15 欧州ではスペイン王位継承戦はじまる。
- 1703 (葡) ポルトガルとイギリスの通商条約 (Methuen) が成立し、イギリス商品 (主として繊維類) がブラジルに大量輸出され、ブラジルの初期的繊維産業は大打撃を受ける。
- 1705 (葡・伯) ポルトガル本国からミナス・ジェライスの金鉱地に向け、ポルトガル人の移民ラッシュはじまる。この年フランス軍はスペインに侵入する。
- 1708-09 (伯) ミナス・ジェライスへの人口流入が活発となり、彼ら「よそ者」にたいし、サン・パウロ人の反感は内乱となるが、前者の勝利となる、(葡) ブラジルの諸情勢、動乱にたいし、本国政府は行政組織の強化を行い、各地に総督府を置く。
- 1710 (伯) レシーフェの商人たちは大地主の特権に対抗しつつ、独自の市会をつくる。—Mascates の内乱—商人階級の臺頭ようやく顕著となる。
- 1713 ユトレヒト条約なり、スペイン王位継承戦は終るとともに、王位はフランスのルイ十四世の孫フィリップ五世がつぎ、スペインのブルボン朝

はじまる。

- 1617-89 (西) ブルボン王朝はかなり進歩的な政策をとるが、その植民地の各処に副王制を設け、エンコミエンダ制を強行的に廃止する。
- 1718 (伯) マト・グロッソの北部にも金が発見される。
- 1720 (伯) この頃、ブラジルの独立運動は鉱山地帯のミナス・ジェライスに発生する。当時の産金は砂金から鉱山時代（主にミナス州）に入り、産金貴族階級を生み、都市と定着的な村落を多数に増加せしめる。
- 1722 (伯) ゴイアス地方からも金発見される。
- 1721-1806 (伯) 植民地のクリオーリョによる初期の独立反乱頻発する。
- 1729 頃 (伯) ブラジルの金鉱は最盛期に入るが、王室の浪費（主に対スペイン戦費その他）と教会に流入し、ブラジルにおける資本蓄積—資本形成は低調を辿る。この頃より、コーヒー生産が現われるが一部の上流社会の嗜好飲料として栽培される。なおミナス・ジェラインでは、ダイヤモンドが発見されるが、その鉱業権は葡政府の独占となる。
- 1733 (伯) 南部地方から陸路を開いて、サン・パウロへ最初の牛群が到着する。
- 1740-48 欧州では第一次七年戦争期に入る。
- 1750 (西・葡) 両国間にマドリッド条約が締結され、ほぼ現在の国境が決定される。(葡) ポルトガルではボンバル大宰時代を迎え、旧来の大貴族および教会の特権を抑え、進歩的な絶対王制の確立とブラジルの開発に向う。
- 1755 (葡) ボンバル侯は Cia. Geral do Grão-Pará e Maranhão を設立、資本を投入してアマゾナス地方の開発に着手する。同年リスボアに大地震勃発し多くの人命と財産失われる。(ラ) この頃、スペイン領アメリカにあっては混血人種（メソチス）とクリオーリョの増加と開発により経済力はしだいに母国を凌駕するとともに、独立運動ようやく激化する。
- 1759 (葡) イエズス教団は反政府の陰謀罪を問われ、ポルトガルおよび植民地より追放される。
- 1763 (葡) ポルトガルはブラジルに副王制を布き Conde do Cunha を

任命すると同時に、新首都にリオ・デ・ジャネイロを指定する。当時のポルトガル財政は度重なるスペイン戦争のため最悪状態となり、宰相ポムパールは打開のため進歩的産業政策を採り、ブラジルの統一を強化する。

1767 (西) イエズス会を解消せしめ、その会員を国外に追放する。

1770-76 (伴) この頃、ブラジルの産金は世界の約80%を占め、ダイヤモンド第一位となるが、ほとんどポルトガル王室→イギリスに吸収され、間もなく産出量は急減する。その反動として、ブラジル農業に資本および労働が再び集中され、これを背景に内陸商業が活発となる。農産物中の綿花生産はイギリスの綿工業の発展に刺激され盛んとなり、サン・パウロ市は集荷の中心地として急激な発展を示す。なお、ブラジルは開発により輸出が順調に伸び、その経済力は完全に母国を凌駕する。

1775-83 (米) アメリカ独立戦争

1776 (米) アメリカ「独立宣言」発表される。イギリス産業革命期に入り、その成品は急速に世界市場に侵出する。(伯) リオ・グランディ・ド・スール地方の牧畜業もこの頃発展するが、同地の行政治安はほとんど有力な牧場主およびガウショ(牧夫)に任せられ、その警備隊は後のブラジル陸軍の主力となる。なお、この牧畜地帯では奴隸制がなく、進歩的独立的社会を出現せしめる。「サント・イルデフォンソ条約」は同地方をブラジル領土と決定する。次いで、この頃勃発した北アメリカの独立戦争および米国の独立宣言は全ラテン・アメリカを激しく刺激する。

1777 ポルトガルでは保守的反動貴族および教会の策謀により、ポムパール侯を政局より追放する。

1780 (西) 植民地にたいし王権直属のインテンデント制(監督官制)を設置し、行政の簡素化と財政収入の増大を企図するが、ペルーはじめ各地に内乱続発する。

1785 (葡) ポルトガルの反動的重商一重農主義はブラジルに「工業禁止令」を發布し、農産物および貴金属を中心とするモノカルチャー体制を押しつける。

1787 (英国) ニュートンの Principia 出版、ヨーロッパに近代科学発足

する。

- 1788-93 (伯) ポルトガルの反動的政策とアメリカの独立宣言に刺戟され、各地に反乱勃発、就中チラデンテスの独立運動にまで発展するが失敗に終る。当時の総人口は約 300 万、このうち奴隷は 100 万人と数えられる。この頃より牧畜業の乾燥牛肉が欧州市場に輸出される。
- 1789-1804 欧州ではフランス革命→テルミドールの反動→ナポレオンの即位そして欧州征服に乗り出す。
- 1794 (伯) リオ・デ・ジャネイロ市で独立陰謀が発覚する。
- 1798 (伯) 北東部の中心パイアにおいても陰謀が発覚する。
- 1800 頃 (ラ) スペイン領アメリカまたはポルトガル領ブラジルの両植民地の経済力は完全に本国を凌駕し、とくにブラジルにおいては北部地方に砂糖、タバコ、東部に綿花、鉱業、南部に牧畜が盛んとなり、商業発展も著しくなるが、外国貿易はすべてポルトガル—イギリスに独占される。
- 1804-14 欧州はナポレオン時代に入る。スペインとポルトガルはフランスとイギリスの間をさまよう。
- 1806-07 (ラ) ラ・プラタ地域の反スペイン運動を援助するためイギリス艦隊はブエノス・アイレス市を占領する。これはスペインの権威を著しく失墜せしめる。
- 1808 ナポレオン軍のイベリア半島侵入はスペインおよびポルトガルに甚大な影響を与える。とくに、ポルトガル王室はブラジルに逃避し、首都をリオ市に置くが、当時ポルトガル王室はイギリスの保護下にあり、イギリスの勢力はブラジルを支配する。
- 1808-20 (ラ) メヒコに独立運動勃発する。
- 1809 (伯) ジョアン六世はブラジルの政治、経済に関する「解放的勅令」を發布し、諸外国に開港する。
- 1810 (伯) イギリスと通商条約が成立し、イギリスには最恵国待遇が与えられ関税率は 15% とポルトガルより 1% 低率となる。これによりイギリス商品はブラジルに氾濫し、ポルトガルおよびブラジルの諸産業は深刻な打撃を受ける。(ラ) メヒコの奴隷制は廃止される。

- 1811 チレの奴隷制度廃止される。
- 1811-22 (ラ) シモン・ボリーバル(ベネズエラ)は南米北部(新グラナダ—Nueva Granada)地方の独立運動を指導し、南部はサン・マルティン(リオ・デ・ラ・プラタ)が先導者となって(1816)活動し、両者の連繫によって、現在の南米諸国が誕生するが、その中心勢力はクリオーリョである。なお、ボリーバルの思想(Bolivarismo)は南米諸国間に「共同機関の設立」の機運を生む。ラテン諸国の独立がとくにベネズエラおよびラ・プラタ(アルヘンチナ)に最近勃発したのは両地方とも農業地帯で、スペイン本国にとってはあまり利益をもたらさず、したがって政策的に冷遇された地方であった。
- 1814-68 (西) フェルナンド七世の治下、イギリスの影響を受け自由主義的「憲法」を發布するが、保守派(大貴族、教会、大商人)の抵抗により内乱となり、却って反動的専制主義が強化される。さらにこれはスペイン領アメリカにも強制施行され、ラテン・アメリカ諸国の独立の直接原因となる。
- 1815 (伯) ブラジルにおいては、それぞれ平等な権利をもつ「ポルトガル・ブラジル・アルガルヴェス地域連合王国」が形成され、かつての植民地「身分」は消滅し、これまで本国人によって独占された高級官職も次第に開放される。
- 1816 イギリスは金本位制を採用する。この頃、フランスは王政復興期を迎えるが、社会体制は保守反動化する。
- 1820 (葡) ポルトガルのポルト市において自由主義的革命が勃発し、政権を握るとともに、ブラジルのジョアン六世に帰国を求める。
- 1821 (ラ) 新スペイン=メヒコではインディオおよびメスティソを基盤とする革命が勃発、中央アメリカにあっては、クリオーリョを中心とする革命、そしていずれも独立国となる。
- 1822 (伯) サン・パウロ市の郊外「イピランガ」で独立宣言が行われ、皇太子ペードロは皇帝ペードロ一世となり、クリオーリョのJ・ボニファシオを登用し、第一次帝制はじまる。

§ 全ラテン・アメリカの革命→独立の結果、だいたい次の改革が実現された。(1)宗教裁判制の廃止、(2)インディオの貢納廃止、(3)奴隷制度の制限あるいは廃止、カビルド（Cabildo=僧院）の権限縮小、アウディエンシヤの権限を司法行政へ限定、ギルドの廃止、もしくはその権限の縮小、血統（Casta）にもとづく差別の撤廃、全港湾の国際通商への開放、職業の自由、さらに移民の促進と帰化法の採択など。

しかしながら、これらの諸地方における「革命→独立」の本質は主にヨーロッパ人の間の問題であって、下層階級はほとんど除外され、一般的変化といえば表面的政治制度の形式的な枠内にかぎられ、その主張もきわめて理念的・非現実的であったがため、却ってインディオ→彼らは宗教裁判制度の管轄外におかれ一教権側によってむしろ保護されたのが一いま宗教裁判の廃止によるクリオーリオの宗教的・政治的自由は、原住民の確保した土地（Ejidros）の多くをインディオから取奪し自由に分配し、インディオの地位を一層悪化せしめた。これが19世紀後半から現在にかけてのラテン・アメリカの大土地制度を再確立したものである。

1820頃

ヨーロッパにおいては産業革命が相次いで起り、先発資本主義国イギリスは完全に海洋権を把握し、19世紀後半の世界市場を支配するのみならず、本国に流入する利潤→貯蓄を海外に再投資し、一層資本主義的地位をかためることとなるが、やがて産業革命を後発したフランス、ドイツもこれに習う。この当時チレにはイギリス投資が約£100万、メヒコでは（1830年以前）£7,000余万に達したといわれる。蓋し、ラテン・アメリカの天然資源は無尽にあると信じられたのであって、かような借款にたいして新生諸国側では開港と返済の義務があり、これが順当に展開しないかぎり、やがて深刻な経済危機に直面するほかなかった。（伯）ブラジルにおいては、イギリス軍人が一時摂政となる事態も発生する。

1820-30とくに

（ラ）しばしば Eda Media（春春時代）と呼ばれるほど各国には種々の国内的内乱が勃発し、長期の無政府状態を出現せしめる。

ベネズエラでは50回近い反乱が勃発し、メヒコも同様である。この混乱のなかから、ラテン・アメリカ政治界における独特のカウデイーリ

☉ (顔役, ボス) が壟頭し, しばしば独裁者となる。

- 1821 (伯) ドン・ジョアン六世は皇太子を摂政に残しポルトガルに帰り, 再びブラジルに干渉をはじめ。この頃より, コーヒ景気が海外需要によって勃発し, サン・パウロを中心とする東部地方に多くのファセンダが出現するが, 労働力の不足は一層深刻となる。なお, ブラジル・コーヒは当時ほとんど世界の完全独占の状態にあったが, その商業権の大部分はイギリス商會が握ることとなる。
- 1822-23 (ラ) メヒコにおいては原住民の内乱後, 憲法議會が正式に召集され共和国となり, カトリックを国教に指定するが, 膨大な教会地(約全土の50%)にたいし開放運動はじまる。(米) 米国政府は歐州の政治的干渉を排除する目的で「モンロー主義」を宣言する。
- 1823 (伯) ブラジルではじめてはじめて共和国憲法(フランス風)が制定される。イギリスの最初の投資はじまる。
- 1825-27 ブラジル対アルヘンテナ戦勃発, これはイギリスの仲介により終るが, 緩衝地帯としてウルグアイ共和国が誕生する。しかし, 両国の財政は極度に悪化し, イギリスに援助を求める。
- 1826 イギリスとブラジル間に奴隸禁止条約なる。ブラジルのココア産業も発展する。(ラ) 同年パナマに第一回「新大陸會議」が開催され, それぞれ独立国家として米國をはじめイギリスその他の承認を得る。
- 1829-51 (伯) イギリスの援助のもとで Banco do Brasil, その他の金融機關設立がされる。
- 1830 フランスの七月革命およびサン・シモンの社会主義論は思想的に中南米の自由主義者, プルジョアに大きな影響を与える。(伯) この頃より, コーヒはブラジルの最重要商品となる。
- 1831-50 (伯) ペードロー世は退位し, 幼い皇太子を残す。この頃, コーヒ生産は世界の50%を占め, 耕作労働者の移民(コロノ)がしだいに増加する。しかし, 各地には, 革命, 暴動が勃発し, しばらく無政府状態となり, Caudilismo 横行する。
- 1832 イギリスに政党政治が発足する。

- 1833-53 メヒコでは独裁者サンタ・アナが長期にわたり直接または間接に国家を支配する。
- 1833-44 （伯）本国派にたいする土着のポルトガル人（Crioulo）の内乱がさらにパラ州で勃発する。つづいて南リオ・グランディ州でも爆発し—フアラ—ボスの内乱となる。
- 1834 （伯）憲法改正が行われる。
- 1835-52 （ラ）アルヘンテナでは独裁者ジョアン・M・ロサス登場する。
- 1838 （伯）マラニョン州に黒人の暴動勃発する。
- 1840 （伯）ペードロ二世（彼はクリオーリョであった）の即位、各地の暴動はしだいに平穏となる。この頃より、アマゾナスのゴム産業盛頭する。—第二帝制始る。（ラ）パラグアイにおいては有能な指導者フランシアが活躍し、次いで独裁者ロベス父子が登場する（-1867）。
- 1844 （伯）ブラジルでは1810年以來イギリスに与えた最恵国（関税）待遇を中止し、その関税引き上げを通じ国内工業の育成と財政収入をはかる。
- 1845-47 （ラ）アルヘンテナは国内経済建設のため鎖国政策をとるが、イギリス、フランス艦隊は沿岸を攻撃し、ベエノス港を占領して開国を強要する。
- 1846-48 （ラ）米国対メキシコ戦争、その結果、和平条約（Guadalupe Hidalgo 条約）により、テキサスおよび上部カリフォルニアは米領となり、これにたいし米国は1,500万ドルを支払う。この頃より、メヒコはレフォルマ時代に入る。
- 1848 フランスに二月革命勃発し、間もなくルイ・ナポレオン登場する。
- 1850 頃 （伯）「奴隷廃止協会」がサン・パウロを中心に成立し、間もなく奴隷貿易禁止令発布される。当時の年間奴隷貿易は含めて約5万人に達す。禁止令により奴隷貿易資本はしだいに国内産業とくにコーヒーに投資されるが、かつての代表的産業「砂糖、綿花」は競争国の出現により急速に衰退に向う。この頃、南アメリカ諸国では「連邦主義」か「統一立成」かについて数々の内乱勃発する。
- 1851-52 ブラジルおよびアルヘンテナのウルグアイ干渉は遂に戦争にまで発

展する。一ラテン・アメリカの帝国立成時代といわれる。

- 1858 (ラ) イギリス資本によるアルヘンチナの鉄道建設はじまる。メヒコにおいてはファレス大統領が自由主義的合理政策を実施する。
- 1860頃 (ラ) その他南米にもイギリス資本が大量投資され、鉄道、港湾施設、金融機関、さらに食肉工場などの建設が拡大する。一方、米国資本はカリブ海地域に積極的な進出を開始する。(伯) ブラジルにあっては、初期の大企業家、Evangelista de Sousa, Mauá 男爵など登場し、União e Indústria が建設される。コーヒ産業はますます発展し、労働力としてイタリア・コロノ移民激増する。
- 1860-80 (ラ) アルヘンチナにおいてはインディオの討伐を通じ領土を拡大するが、同時に大土地制を現出せしめる。
- 1861-63 (ラ) メヒコにおける自由主義者の勝利により教会勢力は大きく後退する。しかし、財政困難のため外債の支払を停止するが、これはフランスに干渉の口実を与え、オーストリア・パプスブルグ家のマクシミリアン大公を「メヒコ皇帝」に即位せしめる。
- 1861-65 (米) 米は南北戦争期に突入し、欧州の干渉に抗議する余裕がなく静観的態度をとる。南北戦争は北部の勝利となり、国内統一、産業資本(鉄道および工業)の非常な発達期を迎える。
- 1865-70 (ラ) ラ・プラタ地域にパラグアイ戦争勃発し、パラグアイはブラジル、アルヘンチナおよびウルグアイ連合軍と戦い、敗戦に終り人口は激減し深刻な打撃を受けるが、ブラジルも戦後の財政難に陥る。なおブラジルにあっては、戦時中その主力が南部軍人によって編成され、その勢力は後まで影響する。ブラジルの黒人もこれに参加する。
- 1866 (ラ) メヒコに反フランス運動が勃発し、そのゲリラ戦によりフランス軍は後退するとともに米国からの抗議もあり、マクシミリアン皇帝は孤立し、ついにメヒコ人によって銃殺される。その後しばらくして独裁者ディアスの内乱勃発する。なお、この時期をもって欧州からの政治的干渉は終り、代って経済的帝国主義が前進する。
- 1867 (ラ) メヒコはファレス大統領の下でレフォルマの目的を大半達成

- する。同時にイギリス資本を入れ鉄道建設に努力し、教育もかなり進展するが、大土地制は放置される。
- 1870 (伯) サン・パウロのコーヒ地主を中心とする共和党結成される。
- 1871 (伯) 摂政イサベルは部分的奴隷廃止法に署名し、発布する。
- 1876-1911 (ラ) メヒコにおいては反動的ディアスの独裁期、メヒコの社会情勢はレフォルマの意義を失い逆転する。とくにインディオの共有地の掠奪がさらに大規模となる。
- 1876頃 (米) 米国の対中南米資本投資はしだいに積極的となり、とくにメヒコの鉄道および鉱業利潤は莫大となる。他方、アルヘンチナはイギリスの食糧（小麦および食肉）の供給地化する。
- 1877-81 (伯) 北東部地方は大旱魃にみまわれ、多数の人口がアマゾン河域および東南部に移動する。
- 1881-90 (伯) 欧州移民のコロノはコーヒ景気とともに激増し、サン・パウロ州はほとんどコーヒ園でおおわれる。
- 1884-88 (伯) セアラ州の奴隷制廃止は他の州にも波及し、軍人クラブも同調する。
- 1888 (伯) 摂政イサベルは全奴隷廃止法に署名し、これを公布する。当時の解放奴隷数は約72万人と算定されるが、ノルデステの大地主たちは非常な不満をもつ。
- 1889 (伯) 軍部のクーデタにより王制が廃止され、共和制国家となり各州の独立また自治権が一応拡大される。当時の人口は約1,400万に達し、諸外国の産業も盛んに進出を開始する。
- 1890-1900 (伯) コーヒ産出は急増し、世界市場をほぼ独占するが、市場権は依然イギリス資本が握る。この頃の外国資本は全中南米を通じイギリスが第一位を占める。なお、南米全般に自由主義、反教會的な中産階級（ブルジョア）と保守的の大地主および大商人間に激しい対立が現われ、その政争はしばしば内乱にまで発展するが、しだいに前者のブルジョアの権頭が顕著となる。
- 1890 米国の主唱による Pan American Union 結成される。

- 1891 (伯) 共和国第一次憲法が発効されるが、多分に米国風の性格をもつことになる。最初に軍人大統領が選出され、次いで国家主義の大統領フロリアノ登場する。
- 1893 (伯) これまでのブラジル大統領はほとんど東部の三州(リオ、サン・パウロおよびミナス・ジェライス)を基盤とする陸軍軍人に限られた観があり、これにたいし海軍軍人の反乱勃発さらに、南部地方では内乱(政府軍対南部軍)状態となる。
- 1894 (伯) 民間人 Prudente de Morais (共和党所属)が大統領に選出され、一応混乱は治まるとともに、サン・パウロの政治・経済力はさらに増大し、国内の産業中心地となる。(ラ) 他方、メヒコにおいてインディオの反乱勃発するが鎮圧され、その後に極端な大土地所有制が出現する。米国資本も広大な土地を獲得する。その主産物家畜のほとんどは米国に輸出される。
- 1895 (ラ) キューバの砂糖生産は世界最大となり、同時に積極的な独立運動がはじまる。アメリカ資本投資も約5,000万ドルに達す。
- 1896 (伯) バイーアの北部カタードスでは旧新両派の対立により内乱状態となる。この頃、外国移民は100万人に達し、主にコーヒ産業に従事する。同時に、国内の間屋制度もしだいに発展し、これを「商業革命」と呼ぶ学者が多い。
- 1898-99 (米-西) 米西戦争がキューバ問題をめぐって勃発し、スペインの敗戦-キューバの独立となるが、ほとんど米国の保護領となる。その後米国資本の投資は急増するものの、キューバの大土地制は温存される。この頃、中南米の果樹地帯に米国資本が大量投資され United Fruits Co. の設立がみられる。
- 1900 (米) 米国はプエルト・リコを属領とし、さらに前進する。
- 1901 (ラ) メヒコに自由党結成され、そのうちの一部はアナーキズム的斗争を開始する。
- 1903 この頃、チレにおける硝石ブームが現われるが、その大土地制は温存される。

- 1906 (伯) ブラジルに最初のコーヒ恐慌勃発し、外国移民は激減するとともに、コーヒ統制 (Taubaté Agreement) がはじまる。この頃、南米のサンデカリズムは頂点に達するが、その後に組織的な労働組合運動がようやく顕著となる。
- 1908 (伯) 日本の農業移民も登場する。諸外国よりの工業投資と工業化の前進に対応して労働運動も盛んとなる。
- 1908-35 ベネズエラはゴメス独裁期に突入する。
- 1910-11 (ラ) 「メキシコ」革命勃発し、土地改革をめぐってサバタ（南部地方）その他が活躍し、独裁者ディオス没落する。(伯) この頃、ブラジルにおいてはサン・パウロ市の一層の発展をみるが、農業低調の結果、各州は移民誘引のため土地分譲による小地主あるいは自作農育成方針をとる。
- 1914-18 (ラ) 第一次世界大戦期。全中南米にたいする欧州商品の輸出また資本投資は激減し、ブラジルをはじめ各国に軽工業中心の工業化はじまる。(伯) とくにブラジルにあっては、大商人および大地主を背景とする財閥の形成があり、コーヒ景気も再発し、国際収支は著しく改善される。この頃、ブラジルの一般法制定される。
- 1917 米国はドイツに宣戦布告し、ブラジルはじめその他諸国も参加する。同年末ロシア革命が勃発し、ロシア帝国は社会主義国家に変貌する。一方、メヒコにあっては革命的な憲法「ケレタロ憲法」を制定し、一般選挙、大土地所有制の修正、教会権および大所有地の縮小、外国資本の取用などに乗り出すとともに、進歩的な労働法をつくる。これは他のラテン・アメリカ諸国に基大な影響を与える。
- 1918 (ラ) ベネズエラに豊富な油田が発見され、米国はじめ世界の大石油会社は積極的な投資を始める。第一次世界大戦終了の経済的反動現われ、とくにチレでは経済恐慌勃発する。この頃よりラテン・アメリカ諸国に共産党出現する。
- 1919 (ラ) メヒコのサバタは暗殺され、代って近代労働団体を背景とするオブレゴン大統領となる。

- 1920 (伯・ラ) ブラジルにおいてはゴーンビの世界的需要を迎へ増産に転じる。米国はパナマ運河を完成し、同時にイギリスに代って投資活動を一層積極化するが、ようやく全中南米諸国は反抗的態度を示す。(ラ) メヒコにはオブレゴン大統領が統治し、長期(約10カ年)の内乱も治まるが、彼は労働組合の育成に非常な努力をかたむけ、また教会の大土地所有制にも激しく反対する。
- 1921 (伯) 共産党結成される。
- 1922 (伯) ブラジルにおける工業の発展はやがて労働運動→社会主義運動を惹起せしめ、軍部内でも下級士官が中央政府に反抗し、リオ市のコパカバーナ砦で内乱が勃発するが、ほとんど全員が殺され、残存者はこれを契機に新しくはじまるテネンチズモ運動の指導者となる。
- 1923 第四次パン・アメリカ会議は、米国にたいし冷淡の態度を示す。
(伯) この頃、ブラジルでは上層軍部の保守的態度に不満をもつ下級若手士官の社会改革運動(Tenentismo)勃発する。この運動は中産階級、ブルジョアと深い関係をもつ。(ラ) メヒコではフォルマ運動が未完成のまま一時停滞する。
- 1924-27 (伯) 経済不況の勃発、当時、憲法改正が行われ中央集権化を目指すが、サン・パウロ州をはじめ各地に地域主義の反乱を発生せしめる。これは最初の世界恐慌の訪れといわれる。
- 1925 世界貿易は急速に縮小し、まず一次産品に激しい価格下落が現われる。(ラ) チレでは憲法制定がなされるが、軍部の指導力顕著となる。
- 1926 (伯) W・ルイスは共和党を基盤としてブラジル大統領に当選し、道路その他の公共施設の開発に努力する。
- 1927 世界恐慌の徴候いよいよ濃厚となる。
- 1927-29 (伯) 膨大な米国資本が引続き流入し、外国の諸大工場は出現するが、同時にブラジル財閥の工業投資もようやくはじまる。代表的農産物コーヒーは世界恐慌の影響を受け、その価格の60%暴落する。
- 1928 世界の各国に構成的失業群現われる。欧州ではイタリアがファシスト化する。第6回パン・アメリカ会議開かれるが、反米的感情は露骨とな

る。

1929-31 世界の金本位制は次々に崩壊し、ニューヨーク株式市場の大暴落、先進諸国の海外投資も縮小する。（ラ）この頃、チレの代表的産業は硝石より銅に移る。

1930 （ラ）世界恐慌はいよいよ表面化し、とくに一次産品を主体とする中南米諸国のモノカルチャー産業は深刻な打撃を受ける。（伯）コーヒー価格はさらに暴落し、これにたいする一層の生産増大はさらに生産過剰→価格崩落となって、ブラジル農業に最大の危機をもたらす。10月3日リオ・グランデ・ド・スール州、パラíba州の各知事は地元住民の強要により中央政府に革命を起し、ジェトゥリオ・ヴァルガスの指揮のもとにリオ市に進軍する。他方、陸軍のクーデタも勃発し、時の大統領ワシントン・ルイスは失脚するとともに、ヴァルガスは臨時大統領に就任する。

1931 イギリスの海外投資は激減する。（伯）ブラジルでは金融恐慌が勃発し、多数の銀行破産は経済恐慌をさらに深刻化する。ヴァルガスはブラジル行政の中央統一化を強調する。（ラ）ペルーのスタンダード石油会社に大ストライキ勃発する。

1932 （伯）地方自治を唱えるサン・パウロ州は「憲法」の連邦自治主義を楯に、ヴァルガス主義に反抗し大動乱を起すが、急速に鎮圧される。（ラ）この年、ボリビアとパラグアイは領土問題をめぐって交戦する。

1933 （米）米国大統領ルーズベルトはNew Dealを計画、発足せしめ、経済恐慌の克服に向う。欧州ではヒトラーによりドイツ共和制が全体主義的ナチス化される。

1934-40 （ラ）この頃、メヒコにおいてはブレゴル大統領に次いでカリエスー・カルデナス大統領が登場し、全国農民連合（CNC）およびメヒコ労働者連盟（CTN）の支持の下に積極的改革を実施し、全国耕地の約50%を農民に再分配すると同時に、勤労階級の生活環境の改善に向う。次いで、1936年「強制収用法」の成立を通じ外国資本の鉄道を国有化し、1938年には米英石油資本の国有化を宣言する。これらの大改革によりメヒコの世界経済は急速な発展を示す。

- 1934 (伯) 民族的な第二次憲法が發布され、ヴァルガスは上院より選出され大統領となるが、この時、「国民主義または国家主義」の思想が急激に擡頭し、ANL 党が結成されるとともに、「共産党」の強力な抵抗もみられる。
- 1934-38 (西) 欧州におけるスペインでは保守派との大衝突が勃発し、ついに大内乱にまで拡大するが、ドイツおよびイタリアの干渉を呼び内乱はさらに深刻化し、最後にはフランコ政府の樹立となる。その間、多数の文化人は中南米へ移住し、文化の向上に貢献することになる。
- 1935 (伯) リオ・デ・ジャネイロ、ベルナムブーコ、リオ・グランデ・ド・ノルテさらにその他に共産党革命勃発するが鎮圧される。
- 1936 米国の提案により「全米平和特別会議」が開かれ、「協議機関」が設置される。
- 1937 (伯) 軍部のクーデタと支持により、国会の解散、廃止、さらに各地方自治体の議会も否定され、ヴァルガスは「新国家 Estado Novo」を宣言し、国粹主義の独裁的体制をとる。R. C. Simonsen の「ブラジル経済史」出版される。当時、ドイツにはナチス、イタリアにはファッショ、日本では軍部、そしてスペインはフランコ将軍、ポルトガルではサラザールの独裁期に入る。一方、ブラジル経済は対外貿易において好転しつつあって、他方メヒコにおいても外国代表と種々の協議を重ね外国系石油会社を平和裡に収用する。
- 1939 (ラ) ボリビアのブッショ大統領は独裁制を宣言し、大土地主、財閥さらに外国資本による支配体制の打倒に乗り出すが、その過程において暗殺される。(伯) 当時、ブラジルは米国と協定を結び一般経済開発のための財政およびその他の援助を受ける。
- 1940-45 (ラ) 第二次世界大戦。この期間、中南米は連合軍の食糧、軍需原料の供給地となり、貿易の好転を通じ、経済発展に向う。とくにメヒコの経済成長は著しい。
- 1942 中南米諸国は米国に追隨して枢軸側に宣戦布告する。
- 1942 (伯) ヴァルガス大統領はきわめて進歩的な労働法を發布する。

- （ラ）アルヘンテナでは GOU（統一学校団）の指導者ペロンによる社会主義的全体主義国家体制の樹立が宣言される。ボリビアにおいても国民的
革命運動が勃発するが、これはただちに鎮圧される。
- 1945 （ラ）第二次大戦は枢軸側の敗北となり、「全体主義」理念は完全
に崩壊するとともに、これはブラジルまたはアルヘンテナにも影響する。
（伯）政党政治が復活する。C. Prado の「ブラジル経済史」出版される。
- 1946 （伯）第三次共和国憲法はとくに政党資格を全国的規模とすることに
に決定。一層の国家的統一、民族主義が織り込まれるが、経済面ではコー
ヒ産業の行詰り、大戦後の反動による国際収支の悪化が現われる。ここに
において、計画経済（Metas）の SALTE（保健・運輸・動力の開発）が發
表されるが、他方「労働総同盟」の結成、スト権の立法化などもみられる。
（ラ）アルヘンテナにおいてはペロン大統領となり、労働諸団体の支持を
得て工業化計画、農地改革さらに外国資産の国有化計画などを発表する。
この頃、米国が全南米のほとんどの資本投資、貿易を牛耳る。
- 1947 （伯）共産党は禁止される。
- 1948 （ラ）第九回パン・アメリカ会議により「米州機構憲章」作られる。
当時のラテン・アメリカの対外負債は巨額となる。（伯）ブラジルはソ連
邦と国交を絶断をする。
- 1949 極東においては「中華人民共和国」誕生する。
- 1950 （伯）ヴァルガスは人民投票により大統領に再選される。（ラ）プレビュ
シュ報告発表される（ラ）ボリビアでは国民革命派が勝利を獲得し、
社会改革に向う。
- 1952 （伯）北東部地方は再び大旱魃にみまわれ、多数の人口の東南移動
がはじまるほか、財政的インフレによる物価騰貴も顕著となり、しだいに
ヴァルガスは苦境に陥入る。（ラ）当時、アルヘンテナにあってはペロン
大統領が再選され、独裁的方向に進むが、経済面での行詰り現われる。
- 1953 ソ連はアルヘンテナ、ウルグアイ、キューバなどと通商条約を結び、
さらに経済援助を協定する。米国も援助行動を起す。
- 1954 （伯）ヴァルガス政権は一層激しくなる批判的となり政治的危機

に陥入る。ときに軍部がら圧力により辞職せねばならなくなるか、ただちに自殺する。副大統領カフェ・フィーリョが大統題に就任する。彼とともに反ヴァルガス派が政権を握る。(ラ)アルヘンチナにおいてもペロンの諸政策は完全に行詰り、ついに教会とも争う。

- 1955 (伯) この年ブラジル経済の悪化は累積し、クルゼイロ貨の暴落、そして経済恐慌の勃発にまで落ち込む。同年10月の大統領選挙において PSD (社会民主党) と PTB の連合の下にヴァルガス派のクビシェック (ミナス・ジュライス州知事) が大統領に当選するが、これによってヴァルガス派と反ヴァルガス派の対立が激化し、クーデタの勃発、大統領代行のカフェ・フィーリョは辞職せしめられる。(ラ)アルヘンチナにあっても軍部のクーデタによりペロンの没落亡命、軍政権樹立を経て、1853年の旧憲法が復活される。この頃より、世界市場における一次産品の暴落はさらに顕著となる。
- 1956-61 (伯) クビシェック大統領は任期中「50年を5年」のスローガンを掲げ大胆な開発政策を実行し、外国資本の大量誘致、自動車、製鉄、造船、石油などの重工業化をはかるとともに、ブラジルに首都を建設する。しかし、これがため財政面では大赤字となり、インフレを発生せしめ、間もなく辞職する。(ラ)この頃、中南米各地の反米的学生運動が積極化する。
- 1959 IDB (米州開発銀行) が設置される。キューバに革命が勃発し、南半球に社会主義国家が誕生するが、あらゆる外国資産を国有化し、米国と激しい対立に入る。C. Furtado の「ブラジル経済の形成と発展」出版される。
- 1960 中米のメヒコと南米諸国を一体とする「貿易共同体 LAFTA」結成される。(伯) 国際収支は極度に悪化し、国内のインフレ問題は重大化する。
- 1961 米国のケネディ大統領は「進歩のための同盟」を提唱し、ウルグアイのプンタ・デル・エステの米州経済社会会議において米国は今後10カ年主として公共資金に200億ドルの援助を与へ、ラテン・アメリカ諸国は農地改革と税別改革を中心とする社会経済的改革を民主主義的手段で自主

的に行うことを協定する。これは「ブンタ・デル・ニスタ憲章」として相互に承認される。（伯）UDN（民主連合党）の推薦するクアドロス（サンパウロ州知事）が大統領に当選する。しかし、就任後6カ月でUDNと対立することとなり、突然辞職する。副大統領グラールと軍部首脳部の間に対立が起り、副大統領グラールの大統領就任に反対するが、議会で可否を決せしめ軍部は就任を認める。

1964 （伯）グラール大統領はインフレ克服、社会改革に向うが、事態は改善されず、そのうち彼の革新政策は軍部を刺激し、クーデタの勃発により亡命する。その後軍政部の代表ブランコ元師が上院の選出により大統領に就任する。

1965 （伯）軍政令により政党の解散、大統領権の拡大が行われ、他方では左翼系学者、政治家の追放、旧大地主、財閥への制圧が行われ、具体的政策としてはデフレ政策の強行、民族的計画経済が登場し、徐々に税制と土地制度の改革に進む。（ラ）その後、ラテン・アメリカ諸国は大なり小なり国民主義を基盤とする社会・経済福祉計画を目標に、インフレ克服を目ざして、それぞれ努力するが、ブラジルとメヒコの成長はきはめて顕著となり、現在におよぶ。その間1967年までは極めて苦難であり、真の経済成長が自律的に開始したのは1969年以後に属する。

年表に関する諸文献

- W. L. Langer (Comp. Ed.), *An Encyclopedia of World History*, 1952, (Cambridge).
Rosa D. De Babini, *Los Siglos De La Historia-Tablas Cronológicas*, 1960 (Mexico-Buenos Aires).
Vicente Tapajós, *Manual De Historia Do Brasil*, 1962, (Rio).
H. Herring, *A History of Latin America*, 1964, (N. Y.)
J. Vicens Vives (Dirigida), *Historia De España Y America*, I-V, 1961, (Barcelona).
C. Perez Bustamante, *Compendio De Historia De España* (sept. ed), 1962, (Madrida).
J. Lúcio De Azevedo, *Épocas de Portugal Económico-Esboços De História*, 1929, (Lisboa).
A. G. Mattoso, *História de Portugal*, 2 Vols. 1939, (Lisboa).

R. C. Simonsen, *História Econômica Do Brasil (1500/1820)*, 1967, (São Paulo).
 J. P. Pandiá Calogeras, *A Formação Historica Do Brasil*, (Trans) P. A. Martin, *A History of Brasil*, 1963, (São Paulo).
 J. M. Bello, *História da República*, 1940, (São Paulo).
 C. Prado. Jr. *História Econômica Do Brasil*, 1962, (São Paulo).—邦訳 (後掲)
 C. Furtado, *Formação Econômica do Brasil*, 1967, (São Paulo).—邦訳 (後掲)
 H. F. Lima, *História Político-Econômica e Industrial do Brasil*, 1970. (S. P.)
 F. Fernandes, *A Sociologia numa Era de Revolução Social*, 1963, (São Paulo).
 J. S. Herzog, *Breve Historia De La Revolucion Mexicana*, 1-2, 1962, (México-Buenos Aires).
 F. G. ヒル, G. アレドラーデ, 村江四郎訳「ラテン・アメリカーその政治と社会—」1971.
 ラテン・アメリカ協会編, ラテン・アメリカの歴史, 昭和39年.
 同, ラテン・アメリカの政治と軍部, 昭和45年.
 同, バルガス以後, 昭和45年.

〔II〕 附録—ラテン・アメリカに関する諸資料および諸統計

ここでは上記の年表に関する歴史的諸資料をあげ、その裏附けとする。

〔1〕 1500～1820……植民地時代のラテン・アメリカの行政組織。



〔2〕 L. A. の Castas (階級性) — 社会構造

	(西)	(葡)	
① 本 国 人	Peninsular	〃 (同様)	支配階級
② 新大陸生れの西人 (白人)の子孫	Criollo	Crioulo	
③ 白人∞インディオ	Mestizo	Mestiço	
④ 白人 ∞ 黒人	Mulato	〃	被改配階級
⑤ 土 着 民	Indio (Cacique には特別待遇と 貢納の免除があった)	Indio	
⑥ インディオ∞黒人	Sambo	〃	
⑦ 黒 人 (奴 隷)	Negro	〃	

(註) 新大陸ことに Ibero-America を対象としてであるが、上記のカスト制については、1811 プロイセンの学者アンボルト男爵がこれを指摘したのである。そして当時のカスト制は上記のように「血統」を中忠に形成され、殆んど慣習的に構成されていたといわれる。

〔3〕 a. 現在のラテン・アメリカ主要国の複雑な人種構成 1950年調査 %

	白人	メソチン	インディオ	ムラト	黒人
アルヘンチナ…………	90	9	僅小	僅小	僅小
ブラジル…………	56.8	9	〃	20	13.3
チ リ…………	48	50	〃	〃	〃
コロンビア…………	27	46	〃	22	〃
メ ヒ コ…………	19.6	60	20	小	小
ペ ル ……	27	32	40	小	小
ベネズエラ…………	36	30	小	30	小

(註) ラテン・アメリカ会編「ラテン・アメリカの歴史」7ページより作成。

〔3〕 b. ブラジルを中心とする過去の人口構成過程

年 次	自 由 人	奴 隷	総 数
	17,100	—	不明
1600	30,000	70,000	100,000(?)
1700	200,000	100,000	300,000(?)
1800	2,000,000	1,000,000	3,000,000(?)
1823	2,813,351	1,147,515	3,960,866
1850	5,520,000	2,500,000	8,020,000
1872	8,601,255	1,510,806	10,112,061

〔4〕 b. 大土地所有制の現況

国名	小農（5ヘクタール以下）		大農（5,000ヘクタール以上）	
	全農業経営者中に占める割合	全可耕地に占める割合	全農業経営者中に占める割合	全可耕地に占める割合
アルゼンティン	43.2	3.4	0.8	36.9
ブラジル	22.5	0.5	4.7	59.5
コロンビア	64.0	4.9	1.3	49.5
チリ	36.9	0.2	6.9	81.3
エクアドル	89.9	16.6	0.4	45.1
グアテマラ	88.4	14.3	0.1	40.8
ペルー	88.0	7.4	1.1	82.4

資料 ECLA「ラ米経済研究」1967年3月

〔4〕 c. 教会所有の上地面積—1960年（単位 ha）

（国名）	（面積）	（国名）	（面積）
アルヘンチナ	6,000 ha	ペルー	70 ha
ブラジル	1,000 以上	コロンビア	100 //
チリ	30 //	パラグアイ	9 //
メヒコ	150 //	ベネズエラ	50 //
		その他	—（略）

Deutsche Aussenpolitik-Gegenwarts-probleme Lateinamerica, Soderheft II/1961. S. 122.

〔5〕 a. 現在のラテン・アメリカの国民総生産（1966年末，一人当り，単位ドル）

資料 米国国務省統計

アルヘンチナ	750	ウルグァイ	569	ニカラグァ	365
ブラジル	271	ハイティ	66	パラグアイ	224
チレ	501	トリニダッド・トバゴ	662*	ドミニカ	264
エクアドル	224	ボリヴィア	149	ヴェネズエラ	842
グアテマラ	314	コロンビア	292	ジャマイカ	438*
メヒコ	470	コスタ・リカ	406	ガイアナ	291*
パナマ	513	エル・サルヴァドル	279		
ペルー	378	ホンデュラス	229		

（*印は1965年度）

ラテン・アメリカ協会「ラテン・アメリカ事典」89ページ，1968年版

〔5〕 b. ラテン・アメリカの一人当り国民所得推移 (現在)

国名	ラ米 GNP に占める割合		1961	1962	1963	1964	1965	1966
	1960	1965						
			(対前年比増加率)					
アルヘンチナ	17.9	16.9	5.3	-3.4	-5.0	6.3	6.1	-2.8
ボリヴィア	0.7	0.8	-0.2	3.2	4.0	3.1	3.1	3.6
ブラジル	28.6	28.3	4.3	2.4	-1.3	0.2	1.7	0.1
コロンビア	6.1	6.1	2.0	2.1	-2.8	3.1	0.4	0.7
コスタ・リカ	0.7	0.7	-1.0	3.8	2.9	1.0	3.0	1.9
チリ	5.0	4.9	1.3	3.8	-0.8	1.4	3.5	5.0
エクアドル	1.4	1.3	-1.5	1.5	0.9	4.8	0.4	0.9
エル・サルヴァドル	0.9	1.0	1.1	9.7	0.7	4.5	0.9	2.2
グアテマラ	1.6	1.8	0.9	-0.3	9.3	3.7	4.4	3.2
ハイチ	0.5	0.4	2.3	2.3	-3.5	-3.5	-3.5	-1.0
ホンデュラス	0.6	0.5	0.4	2.4	-1.4	-0.1	4.1	2.6
メヒコ	19.3	20.7	0.2	1.5	2.9	6.6	1.9	2.5
ニカラグア	0.6	0.7	2.9	6.8	3.8	4.1	6.0	2.4
パナマ	0.7	0.8	6.5	5.2	5.4	1.8	4.8	4.7
パラグアイ	0.4	0.4	3.0	-1.0	-0.3	0.7	3.3	1.4
ペルー	3.1	3.2	2.8	2.6	2.1	3.0	3.3	3.0
ドミニカ	1.1	0.9	-7.5	10.2	1.5	2.7	-15.0	3.6
ウルグアイ	1.7	1.4	1.8	-3.4	-2.2	2.8	-0.2	-0.2
ヴェネズエラ	9.1	9.1	-3.2	2.6	0.6	4.3	1.5	1.8
ラ米全体	100.0	100.0	2.0	1.2	-0.5	3.3	2.3	0.8

資料 CIAP「各国の経済現況」1967年3月

〔5〕 c. ラテン・アメリカ3カ国の階層別所得分布—1965

	アルゼンチン(1)	ブラジル(2)	メキシコ(1)
最下層 10%	2.9	2.8	1.5
第2階層 //	4.1	3.2	2.1
第3階層 //	4.8	4.0	3.1
第4階層 //	5.5	4.4	3.8
第5階層 //	6.1	5.4	4.9
第6階層 //	7.1	6.4	6.0
第7階層 //	8.0	7.7	8.1
第8階層 //	9.6	9.8	12.0
第9階層 //	12.9	14.8	17.0
第10階層 //	39.1	41.5	41.5
最上層 5%	29.4	31.0	29.0
最上層 1%	14.5	19.0	12.0

(註) (1) 世帯 (2) 個人

出所 CEPAL. *Estudio sobre la Distribucion del Ingreso en América Latina*. 1976.

C. フルタード, 水野・清水訳「ラテン・アメリカの経済発展」, 昭和47年, 70ページ

〔6〕 a. ブラジルの諸統計—砂糖企業（過去）

年次	エンゲニョオスの数	輸出量 (アルコバス)	右総価格 (単位アロバス)	金価格 (金一グラム単位)
1560—70	60	160,000	270,406	1,960,000
1580	118	350,000	528,181	2,867,500
1600	200	1,200,000	2,258,300	16,536,000
1650	300	2,100,000	3,765,620	27,537,000
1710	650	1,600,000	1,726,230	12,640,000
1760	—	2,500,000	2,379,710	17,425,000
1806	—	1,500,000	665,774	4,875,000
1822	—	4,790,000	2,184,910	15,996,600
1831	—	5,200,000	1,903,220	13,936,000

R. Simonsen, op. cit., pág. 114

〔6〕 b. 金の産出高 (単位アローバス=15キロ)

年次	ミナス・ゲライス	ゴイアス, マット ・グロソ	サン・パウロ パイアー
1700—1725	7,500	—	—
1725—1735	6,500	—	—
1736—1751	12,000	—	—
1752—1787	18,000	—	—
1788—1801	3,500	—	—
1720—1801	—	13,000	5,0000
計	47,500	13,000	5,0000

総計—65,500 アローバス—983,00 キロ
Calógeras, pág. 52.

〔6〕 c. ダイヤの産出高

年次	ダイヤ採掘 (カラット)	販売価格 (千レイス)	王室への支払い (千レイス)
1740—1743	134,071	1,606,27\$037	575,864\$438
1744—1748	177,200	1,807,742\$837	755,875\$726
1749—1752	154,579	1,438,015\$987	609,526\$465
1753—1758	390,094	3,625,586\$888	914,921\$424
1759—1762	106,416	929,476\$750	329,329\$972
1763—1771	704,209	6,108,570\$163	1,458,663\$563
計		15,515,403\$662	4,644,181\$588

C. R. Boxer, The Golden Age of Brazil, 1964, p. 220.

〔6〕 a. ブラジル植民地時代の貿易

ブラジルの対ポルチュガル貿易表

—1796~1819—

Ano	Exportação (Em mil-réis)	Importação (Em mil-réis)	Lucros (受 取)	Perdas (支 払)
1796	11.474:800\$000	6.982:000\$000	4.492:800\$000	—
1797	4.258:800\$000	8.525:600\$000	—	4.266:800\$000
1798	10.816:400\$000	10.668:000\$000	148:400\$000	—
1799	12.584:400\$000	15.800:800\$000	—	3.216:400\$000
1800	12.528:000\$000	9.432:000\$000	3.096:000\$000	—
1801	14.776:400\$000	10.680:000\$000	4.096:400\$000	—
1802	10.353:200\$000	10.151:600\$000	201:600\$000	—
1803	11.332:000\$000	9.928:400\$000	1.403:600\$000	—
1804	11.199:600\$000	11.383:200\$000	—	183:600\$000
1805	13.948:400\$000	9.505:200\$000	4.443:200\$000	—
1806	14.153:600\$000	8.426:000\$000	5.727:600\$000	—
1807	13.927:600\$000	6.952:800\$000	6.974:800\$000	—
1808	546:800\$000	1.510:800\$000	—	964:000\$000
1809	4.819:200\$000	3.437:600\$000	1.381:600\$000	—
1810	3.683:200\$000	2.932:400\$000	750:800\$000	—
1811	3.633:200\$000	2.792:400\$000	840:800\$000	—
1812	3.987:600\$000	2.463:600\$000	1.524:000\$000	—
1813	4.796:400\$000	3.587:200\$000	1.209:200\$000	—
1814	7.005:600\$000	5.691:200\$000	1.314:600\$000	—
1815	9.059:200\$000	8.233:600\$000	825:600\$000	—
1816	9.663:600\$000	10.304:000\$000	—	640:400\$000
1817	8.308:800\$000	8.567:600\$000	—	258:800\$000
1818	9.646:000\$000	7.939:600\$000	1.707:400\$000	—
1819	7.516:800\$000	6.546:400\$000	970:400 000	—

(Conforme Balbi) Simonsen, *ibid.*, pág. 455.

〔6〕 b. ブラジルの国際貿易—(1)
—リオ港への船舶数—

年次	対ポルトガル	諸外国
1805	810	—
1806	642	—
1807	779	—
1808	765	90
1810	1,214	422
1819	1,313	340
1820	1,311	354

H. F. Lima, *ibid.*, p. 136.〔6〕 b'. ブラジルの国際貿易—(2)—最主要国別
商品の輸出, 輸入価額 (1821~1939)

年次	価額 (単位コント)			差額	英金貨ポンド換算			レイス・ポンド平均価格	輸出対輸入%
	輸出	輸入	総額		輸出	輸入	総額		
1821	20,119	21,260	41,379	-1,141	4,324	4,571	8,895	48651	195.7
1822	19,754	22,498	42,252	-2,744	4,080	4,590	8,620	48902	113.9
1823	20,653	19,420	40,073	+1,233	4,358	4,097	8,455	48759	94.6
1824	19,162	24,061	43,223	-4,899	3,851	3,735	8,688	48975	125.6
1825	21,396	22,841	44,237	-1,445	4,622	3,954	9,555	48630	106.8
1826	16,599	18,672	35,271	-2,073	3,319	4,120	7,054	58000	112.5
1827	124,99	26,894	51,813	-1,975	3,662	3,060	7,616	68803	107.9
1828	32,111	31,940	64,051	+ 171	4,142	4,007	8,262	78752	99.5
1829	33,415	35,531	68,946	-2,116	3,441	3,483	7,101	98709	106.3
1830	35,135	42,047	77,182	-6,912	3,348	4,725	7,355	408494	119.7
1831	32,431	33,490	65,922	-1,060	3,373	2,834	6,856	98615	103.3
1832	31,815	32,146	63,961	- 331	4,677	4,725	9,462	68803	86.8
1.º semestre 1833	20,919	18,165	39,084	+2,754	3,236	2,834	6,097	68410	100.3
1833-34	36,175	36,285	72,460	- 110	5,632	5,650	11,232	68423	110.9
1834-35	32,902	36,577	69,569	-3,585	5,328	5,907	11,235	68192	99.4
1835-36	41,442	41,190	82,638	+ 246	6,776	6,735	13,511	68116	132.6
1836-37	34,183	45,320	79,503	-11,137	5,476	7,260	12,736	68243	121.6
1837-38	33,511	40,757	74,208	-7,246	4,129	5,021	9,150	68117	118.9
1838-39	41,598	49,446	91,044	-7,848	4,863	5,780	10,643	88555	121.2
1839-40	43,192	52,359	95,551	-9,167	5,688	6,896	12,584	78593	122.5
1840-41	41,672	57,727	99,399	-16,055	5,384	7,458	12,842	87407	138.5
1841-42	39,084	56,041	95,125	-16,957	4,936	7,078	12,014	78918	143.4

FONTE—“Quadros Estatísticos”, n.º 1, do Serviço de Estatística Económica e Financeira, e informações fornecidas pelo mesmo Serviço, retificando em alguns casos algarismos anteriormente publicados.

[6] c. ブラジルの対「米国」,「英国」および「ポルトガル」貿易

年次	北 米 合 衆 国						大	
	実 額		比 率				実 額	
	輸 入	輸 出	輸 入	輸 出		輸 入	輸 出	
	英 貨 ￡		% 金額比較		輸入割合	英 貨 ￡		
1842-43	665,082	753,778	117.6	165.6	114.1	453,167	344,930	
1852-53	848,335	2,649,817	35.0	324.2	312.4	658,597	342,900	
1862-63	692,422	1,672,277	60.9	134.6	222.4	653,874	544,249	
1872-73	915,293	6,552,526	56.0	293.1	720.3	1,302,917	1,388,673	
1901	2,639,237	17,492,630	124.4	430.0	651.7	1,386,820	244,549	
1902	2,831,743	13,484,395	122.5	370.1	472.8	1,612,988	387,261	
1903	2,731,928	15,200,591	112.0	412.1	556.4	1,747,925	470,559	
1904	2,684,775	19,872,077	111.3	504.0	688.9	1,858,170	(1) 345,849	
1905	3,082,570	18,360,494	103.2	411.3	593.6	2,163,793	(2) 261,553	
1906	3,995,128	18,627,520	114.0	351.1	489.5	2,174,691	312,755	
1907	5,172,714	17,432,356	127.0	321.8	337.0	2,355,429	(2) 375,417	
1908	4,298,439	17,069,931	121.1	491.0	411.9	1,836,498	(2) 194,368	
1909	4,597,941	25,595,429	123.3	491.7	554.7	2,063,958	(2) 187,373	
1910	6,127,542	22,858,529	128.0	362.3	373.0	2,685,561	(2) 168,174	
1911	7,045,277	23,810,284	133.4	257.2	238.3	2,841,199	(2) 305,444	
1912	9,899,036	29,290,594	159.1	391.2	295.0	3,001,837	(2) 158,213	
1913	10,553,433	21,103,483	157.1	322.4	299.0	2,948,039	326,463	
1914	6,222,948	19,001,781	175.5	409.0	306.4	1,869,359	415,583	
1915	9,651,365	22,149,556	320.7	410.6	228.5	1,460,323	456,117	
1916	13,840,605	25,831,905	392.4	467.5	193.1	1,872,049	313,600	
1917	21,065,592	28,013,186	473.3	444.4	132.0	1,435,574	273,897	
1918	18,984,413	21,267,015	359.5	345.0	112.1	2,027,917	534,625	
1919	37,412,191	54,079,947	478.9	415.7	144.8	2,394,542	603,138	
1920	51,939,083	44,987,187	415.5	418.4	89.6	2,614,150	2,049,369	
1921	19,147,865	21,664,607	316.7	309.8	113.1	1,102,221	1,258,169	
1922	11,081,624	26,450,544	237.8	385.8	233.7	1,176,931	1,195,832	
1923	11,238,827	30,292,781	222.4	413.0	249.5	1,044,075	1,663,315	
1924	16,543,800	40,808,915	242.1	420.1	246.7	1,259,726	555,340	
1925	20,771,604	46,467,025	245.0	451.7	228.7	1,469,675	564,843	
1926	23,508,962	45,103,290	291.9	478.5	138.5	1,662,028	395,271	
1927	22,843,375	40,981,998	286.9	462.1	179.4	1,487,343	393,538	
1928	24,089,760	44,278,917	265.7	454.5	183.8	1,857,946	431,028	
1929	26,113,948	49,634,671	301.4	422.2	133.3	1,343,067	508,469	
1930	12,956,468	26,523,271	241.6	403.4	291.7	1,047,293	418,754	
1931	7,139,996	21,613,193	250.0	436.2	593.9	394,149	231,297	
1932	6,566,268	13,788,323	301.9	458.3	253.7	469,442	149,150	
1933	5,957,764	18,716,390	211.8	467.1	296.6	692,720	153,063	
1934	9,027,001	13,806,788	236.6	491.6	221.0	458,732	369,511	
1935	6,406,277	13,018,434	233.6	391.4	266.2	369,790	247,491	
1936	6,631,129	15,179,799	221.3	388.5	228.2	463,943	189,150	
1937	9,336,999	13,362,517	229.9	361.9	164.9	519,025	349,816	
1938	8,694,768	12,336,184	242.1	343.2	141.9	590,374	191,168	
1939	10,613,220	13,521,066	333.7	362.5	127.4	562,987	222,902	

出所 Anuário Estatístico Do Brasil-1940.

—1842~1989

総 計=1.000

英 帝 國			ポ ル ト ガ ル				
比 率			実 額		比 率		
輸 入	輸 出		輸 入	輸 出	輸 入	輸 出	
〃 金額比較		輸入割合	英 貨 ££		〃 金額比較		輸入割合
80.1	73.2	76.1	453.167	344.930	80.1	75.2	76.1
66.0	41.9	52.1	658.597	342.300	66.0	41.9	52.1
60.0	62.0	123.1	653.874	844.249	60.2	62.9	123.1
79.8	61.7	106.6	1 302.917	1 388.673	70.8	61.7	106.6
64.9	0.0	17.6	1 286.820	244.549	64.9	0.0	17.6
69.3	9.8	22.1	1 612.988	357.281	69.3	9.8	22.1
72.2	12.8	26.9	1 747.925	470.559	72.2	12.8	26.9
73.2	8.8	18.2	1 898.170	(1) 345.848	73.2	8.8	18.2
73.2	5.9	12.0	2 183.793	(2) 261.553	73.2	5.9	12.0
65.5	5.9	14.4	2 174.691	612.733	65.5	5.9	14.4
58.1	0.9	15.9	2 355.420	(2) 375.417	58.1	0.9	15.9
51.7	4.4	10.6	1 836.408	(2) 194.368	51.7	4.4	10.6
55.6	2.9	9.1	2 063.958	(2) 187.373	55.6	2.9	9.1
55.7	2.7	6.3	2 055.661	(2) 165.174	55.7	2.7	6.3
53.8	4.6	10.8	2 841.199	(2) 805.444	53.8	4.6	10.8
47.3	2.1	5.3	3 001.837	(2) 158.213	47.3	2.1	5.3
43.9	5.0	11.1	2 945.059	226.463	43.9	5.0	11.1
51.0	8.9	23.0	1 809.355	415.593	51.0	8.9	23.0
49.5	6.0	32.6	1 490.323	456.117	49.5	6.0	32.6
46.4	5.6	16.8	1 872.040	612.690	46.4	5.6	16.8
32.3	4.4	19.1	1 435.574	273.807	32.3	4.4	19.1
35.4	9.1	27.3	2 027.917	554.625	35.4	9.1	27.3
30.2	5.9	29.3	2 334.542	693.138	30.2	5.9	29.3
21.9	19.1	77.5	2 614.180	2 049.360	21.2	19.1	77.5
18.2	21.5	114.1	1 102.221	1 258.169	18.2	21.5	114.1
24.2	17.4	101.6	1 176.931	1 195.832	24.2	17.4	101.6
20.7	22.6	138.4	1 044.075	1 553.315	20.7	22.6	138.4
18.4	5.8	44.1	1 259.726	555.340	18.4	5.8	44.1
17.8	5.5	37.7	1 499.675	564.843	17.8	5.5	37.7
20.8	4.2	23.8	1 662.628	395.271	20.8	4.2	23.8
18.7	4.1	24.4	1 487.343	363.338	18.7	4.1	24.4
20.5	4.4	23.2	1 857.946	431.028	20.5	4.4	23.2
15.5	5.4	37.9	1 342.067	768.469	15.5	5.4	37.9
19.5	6.4	40.0	1 047.233	418.754	19.5	6.4	40.0
13.7	4.7	58.7	364.140	231.207	13.7	4.7	58.7
21.6	4.1	31.8	469.442	149.190	21.6	4.1	31.8
21.4	4.3	25.4	602.720	153.043	21.4	4.3	25.4
18.0	10.5	50.6	435.732	369.511	18.0	10.5	50.6
13.3	7.5	68.0	393.700	247.491	13.3	7.5	68.0
15.4	4.9	40.8	463.643	189.150	15.4	4.9	40.8
12.8	8.2	67.4	519.025	349.816	12.8	8.2	67.4
15.6	6.1	39.1	590.374	219.168	15.6	6.1	39.1
17.7	6.0	40.0	562.987	222.903	17.7	6.0	40.0

〔6〕 d. ブラジル貿易総計 (1821~1940)

Decênios(10年毎)	輸出 輸入		輸出 輸入	
	Contos de Réis		Em £ 1.000 ouro(金)過去)	
1821-1830	244.263	265.164	39.097	42.504
1831-1840	348.258	285.742	45.205	54.291
1841-1850	487.540	540.944	54.680	60.999
1851-1860	900.584	1.016.686	102.007	115.280
1861-1870	1.537.175	1.347.514	149.433	131.866
1871-1880	1.963.718	1.621.251	199.685	164.929
1881-1890	2.411.006	2.102.297	220.725	192.361
1891-1900	7.349.258	6.397.324	291.017	252.817
1901-1910	8.123.578	5.391.775	476.222	318.843
1911-1920	12.300.768	9.960.223	688.038	546.906
1921-1930	32.797.144	27.321.166	805.848	674.479
1931-1940	41.978.656	36.650.153	377.024	300.349

C. Prado, *ibid*, ANEXOS, p. 351.

〔6〕 e. 輸出生産物

コーヒ、綿花、カカオゴム、皮革、煙草マーテ。その他

<i>Decênios</i>	<i>Valor em contos</i>	<i>Valor em £</i>	<i>Valor em contos</i>	<i>Valor em £</i>
1821-30	21.719	33.544.000	30.544	5.553.000
1831-40	313.647	44.165.000	34.611	5.040.000
1841-50	430.127	48.215.000	57.850	6.465.000
1851-60	813.303	92.674.000	82.231	9.333.000
1861-70	1.384.429	134.983.000	152.746	114.450.000
1871-80	1.864.849	189.880.000	98.869	9.805.000
1881-90	2.225.066	203.723.000	185.940	17.002.000
1891-900	7.025.184	278.219.000	324.074	12.798.000
1901-10	7.733.536	453.412.000	390.042	22.810.000
1911-20	10.426.361	588.553.000	1.874.407	99.535.000
1921-30	29.014.032	713.857.000	3.783.062	91.991.000
Quinquênio 1931-35	13.813.738	161.432.000	2.504.476	28.784.000

Em uma publicação da Diretoria da Estatística Econômica e Financeira do Ministério da Fazenda, editada em 1937. 以下同じ.

〔6〕 f. PRODUTOS EXPORTADOS (主要輸出品別)

CAFÉ (コーヒー)

ALGODAO (綿花)

<i>Decenios</i>	<i>Contos</i>	£	<i>Contos</i>	£
1821-30	45.308	7.189.000	48.546	8.069.000
1831-40	152.429	21.529.000	38.251	5.298.000
1841-50	201.469	22.655.000	36.433	4.103.000
1851-60	439.390	49.741.000	55.889	6.350.000
1861-70	695.352	68.004.000	282.392	27.293.000
1871-80	1.108.149	112.654.000	186.664	16.070.000
1881-90	1.487.532	135.657.000	102.120	9.214.000
1891-900	4.691.906	187.917.000	182.210	7.795.000
1901-10	4.179.817	244.146.000	172.511	10.046.000
1911-20	6.446.400	364.842.000	243.220	13.682.000
1921-30	22.807.858	561.035.000	790.364	19.404.000
Quinquênio 1931-35	10.494.996	125.424.000	1.192.929	11.109.000

〔6〕 g. 輸出トン当り価格

千ミルレイス £

<i>Decênios</i>	<i>Café, etc.</i>	<i>Outros Produtos (その他)</i>	<i>Café, etc.</i>	<i>Outros Produtos (その他)</i>
1821-30	230	—	36-3	—
1831-40	198	—	27-9	—
1841-50	178	—	19-9	—
1851-60	248	—	19-1	—
1861-70	380	—	37-1	—
1871-80	380	—	38-7	—
1881-90	360	—	33-0	—
1891-900	1.002	—	39-7	—
1901-10	737	124	43-2	7-2
1911-20	1.007	293	56-9	15-6
1921-30	2.407	451	59-2	11-4
Quinquênio 1931-35	2.211	559	25-8	6-4

〔6〕 h. その他の輸出生産物

AÇUCAR (砂糖)

CACAU (カカオ)

<i>Decênios</i>	<i>Contos</i>	£	<i>Contos</i>	£
1821-30	78.385	11.766.000	1.076	201.000
1831-40	83.646	11.798.000	2.093	288.000
1841-50	130.478	14.576.000	4.790	537.000
1851-60	190.708	21.638.000	9.191	1.033.000
1861-70	185.151	18.307.000	14.182	1.388.000
1871-80	332.905	23.540.000	24.032	2.438.000
1881-90	240.201	21.907.000	39.376	3.585.000
1891-900	416.327	17.358.000	112.204	4.269.000
1901-10	101.122	5.583.000	227.584	13.375.000
1911-20	392.168	20.364.000	454.443	24.818.000
1921-30	473.679	11.389.000	1.043.609	25.605.000
Quinqüênio 1931-35	98.439	1.040.000	611.375	7.031.000

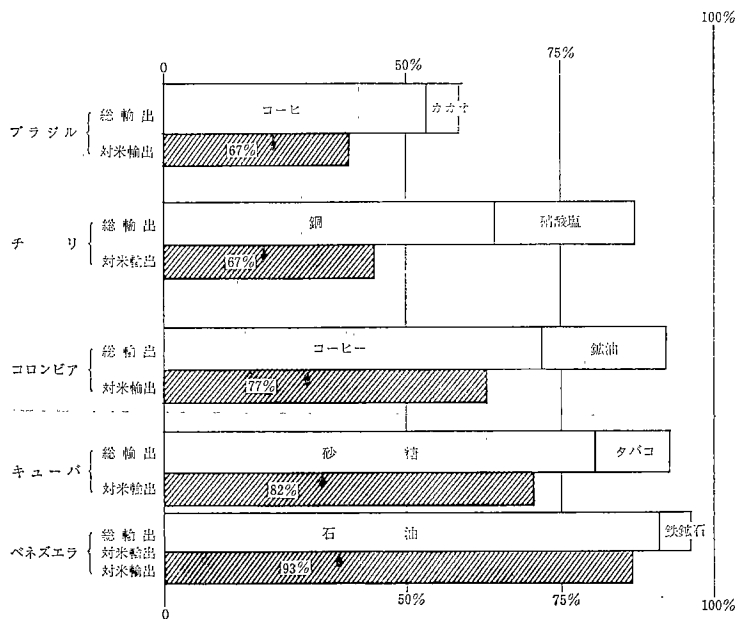
〔6〕 i. FUMO (煙草)

COUROS E PELES (皮革類)

<i>Decênio1</i>	<i>Contos</i>	£	<i>Contos</i>	£
1821-30	33.489	5.314.000	5.759	988.000
1831-40	27.592	3.909.000	6.690	942.000
1841-50	42.056	4.679.000	8.693	974.000
1851-60	65.158	7.368.000	23.749	2.679.000
1861-70	92.382	8.958.000	46.949	4.567.000
1871-80	108.463	11.106.000	67.632	6.870.000
1881-90	76.869	7.167.000	66.207	6.033.000
1891-900	182.210	6.987.000	172.078	6.296.000
1901-10	354.421	20.752.000	200.574	11.467.000
1911-20	788.790	43.010.000	319.474	17.754.000
1921-30	1.516.205	37.014.000	673.540	16.659.000
Quinqüênio 1931-35	655.211	7.720.000	253.265	2.965.000

〔6〕 i. ラテン・アメリカのモノカルチュア経済

—国際貿易（輸出関係）—1960年



（註） 出所総貿易は 1971年7月21日号の New York Times より引用
 対米貿易は OC., 1959年7月号の189ページより

〔7〕 a. 外国資本投資—過去—現在—一般的觀察

Latin-American Government Issues Floated in England, 1822, 1824, 1825

Date and Borrower	Face Value	Price to Public	Interest		Sums Realizde
			Nominal	"Real"	
1822 Colombia	£ 2,000,000	84	6%	7.1%	£ 1,680,000
Chile	1,000,000	70	6	8.6	700,000
Poyais	900,000	80	6	7.5	160,000
Peru	450,000	88	6	6.8	396,000
1824 Peru	750,000	82	6	7.8	615,000
Buenos Aires	1,000,000	85	6	7.0	850,000
Colombia	4,750,000	88.5	6	6.8	4,203,750
Brazil	1,200,000	75	5	6.7	900,000
Mexico	3,200,000	58	5	8.6	1,356,000
1825 Brazil	2,000,000	85	5	5.9	1,700,000
Mexico	3,200,000	89.75	6	6.7	2,872,000
Peru	616,000	78	6	7.7	480,480
Guadalajara	600,000	60	6	10.0	860,000
Central America	163,000	73	6	8.2	118,990
	£21,129,000				£16,892,220

J. Fred Rippy, British Investments In Latin America, 1822-1949. P. 32.

〔7〕 b. 投資活動の盛衰

British Investments in Latin-American Railroads, Public Utilities, and Mining, end of 1880

Country	Railways		Public Utilities		Mining	
	No.	Nominal Capital	No.	Nominal Capital	No.	Nominal Capital
Argentina	6	£ 7,681,860	4	£ 1,230,950		
Brazil	11	11,626,090	9	2,917,145	5	£ 460,104
Chile	4	220,000	2	71,670	2	409,747
Colombia	1	569,800			5	408,578
Cuba	3	1,011,600	1	220,000		
Mexico	1	7,818,895			2	1,381,721
Nicaragua					2	206,570
Peru	4	2,547,500				
Uruguay	3	2,386,805	2	1,142,080		
Venezuela	1	625,000			2	586,590
General			6	5,488,550		
Total	34	£ 34,437,051	24	£ 11,070,895	18	£ 3,398,306

〔7〕 c. British Investments in Latin America, End of 1890

Country	Total Nominal Investment	Government Securities	Economic Enterprises	
			No.	Nominal Capital
Argentina	£ 156,978,788	£ 72,000,000	62	£ 84,978,788
Bolivia	503,003		3	503,003
Brazil	68,669,619	37,009,593	47	31,660,026
Chile	24,348,647	9,535,853	36	14,821,795
Colombia	5,899,883	1,913,500	23	3,485,883
Costa Rica	5,140,840	2,000,000	4	3,140,840
Cuba	26,808,000	24,412,000	7	2,896,000
Dominican Republic	1,418,300	714,800	2	704,000
Ecuador	2,189,480	1,824,000	2	365,480
El Salvador	294,000	294,000		
Guatemala	922,700	922,700		
Honduras	3,888,250	8,222,000	5	666,250
Mexico	59,888,577	20,650,000	39	39,233,577
Nicaragua	411,183	285,000	3	126,183
Paraguay	1,918,424	828,300	3	1,085,124
Peru	19,101,315		7	19,101,815
Uruguay	27,713,280	16,159,395	15	11,558,885
Venezuela	9,846,219	2,668,850	15	7,177,369
General	10,297,702		16	10,297,702
Total	£ 425,727,710	£ 194,439,490	289	£ 231,288,220

*Nominal Capital in Various Economic Enterprises**

98 railways.....	£ 146,902,563
42 public utilities	19,979,145
69 mining enterprises	12,581,341
20 nitrate	5,891,000
22 real estate.....	7,866,209
7 commercial banks	8,625,000
7 shipping and port facilities	5,258,332
13 manufacturing	3,626,340

* This list is incomplete; for more complete enumerations, see Tables 8, 9, 10, and 12. J. F. Rippy, *ibid.*, p. 34.

(7) d. British Income from Ordinary Shares in Profitable
Latin-American Enterprises, 1880

Company	Nominal Capital	Yield
Amazon Steam Navigation	£ 606,285	6%
Anglo-Argentine Tramways	200,000	4
Bahia and San Francisco Railway	1,800,000	7
Brazilian Imperial Central Railway	787,500	7
Brazilian Submarine Telegraph	1,300,000	7
Buenos Ayres Gas	270,000	5
Buenos Ayres Great Southern Railway	1,600,000	10
Carrizal Railway (Chile)	20,000	17
Central Argentine Land	106,559	5
Central Argentine Railway	1,850,700	5
Central Uruguay Railway	945,620	6
City of Buenos Ayres Tramways	350,000	7.5
Conde d'Eu Railway	675,000	7
Copiapó Mining	169,747	8
Cuba Submarine Telegraph	160,000	5
English Bank of Rio de Janeiro	500,000	10
Liebig's Extract of Meat	840,000	10
London and River Plate Bank	600,000	10
London Bank of South America and Mexico	250,000	6
Montevideo Gas	541,920	6
Nitheroy Gas	88,920	4.5
Pará Gas	166,870	5.5
Rio de Janeiro City Improvements	1,000,000	6
Rio de Janeiro Gas	750,000	10
St. John del Rey Mining	253,000	25
San Paulo Gas	80,000	10
San Paulo Railway	2,000,000	10
Santa Bárbara Gold Mining	20,000	10

J. F. Rippy, *ibid*, p. 37.

〔7〕 e. 米国主要産業のブラジル進出（会社設立年度）
（1912～1929）

年次	資本金	会社名
1912	9,384	Amazon and and Colonization
1915	11,503	The National City Bank of New York
1917	12,444	The American Chemical Works Inc.
1917	12,467	International Machinery Company
1917	12,522	United States Rubber Export Company Limited
1917	12,527	Brazilian Tobacco Corporation
1918	13,126	American Steel Export Company's Brazilian Corporation
1918	13,306	Americam International Steel Corporation
1919	13,638	SS. White Dental Manufacturing Co. of Brazil
1920	14,166	American Coffee Corporation
1920	14,167	Ford Motor Company
1920	14,242	The Sydney Ross Company
1920	14,244	Bethlehem Steel Company of Brazil
1921	14,887	Davis & Co. Ltd. of Brazil Inc.
1922	15,551	Atlantic Refining Company of Brazil
1923	16,056	Firestone Tire and Rubber Company
1923	16,164	Universal Pictures Corporation
1923	16,270	American Steamship Agencies Company Inc.
1924	16,585	Great American Insurance Company
1924	16,754	Armour of Brazil Corporation
1924	16,756	Parke, Davis & Company
1924	16,757	International Business Machines Co. of Delaware
1926	17,304	International Harvester Export Company
1926	17,491	Metro Goldwyn Mayer (do Brasil)
1926	17,609	Ingersoll-Rand Company of Brazil
1927	17,970	Companhia Brasileira de Fôrça Elétrica
1928	18,404	Goodrich Rubber Company of Brazil Inc.
1929	18,591	General Tire & Rubber Co. of Brazil
1929	18,592	S/A. Refinações de Milho Brazil
1929	18,648	Western Electric Company of Brazil
1929	18,664	First National Pictures of Brazil Incorporated
1929	18,745	Companhia Burroughs do Brasil Inc.
1929	18,768	Pan American Airways Inc.

(*) FOXTTE: "Sociedades mercantis autorizadas a funcionar no Brasil" (1808-1946),
Publicação do Departamento Nacional de Indústria e Comércio, págs. 122-141.
H. F. Lima, HIST POLITICO-ECONÔMICA E INDUSTRIAL p. 342-343.

〔7〕 f. 各国のブラジル投資額 (単位, 現行 100 万ドル) —1950.

<i>Creditor country and unit of currency</i>	<i>Amounts registered</i>	<i>Total</i>	
		<i>Cruzeiros</i>	<i>Equivalent in dollars^a</i>
<i>United States :</i>			
Dollars ^b	389.6}	17,792.0	950.4
Cruzeiros	10,497.7}		
<i>United Kingdom :</i>			
Pounds sterling	38.4}	4,368.4	233.3
Cruzeiros	2,353.8}		
<i>France :</i>			
French francs	173.4}	815.4	43.5
Cruzeiros	806.1}		
<i>Belgium :</i>			
Belgian francs	64.7}	810.4	43.3
Cruzeiros	785.9}		
<i>Uruguay :^c</i>			
Uruguayan pesos	0.6}	727.2	38.8
Cruzeiros	721.3}		
<i>Switzerland :</i>			
Swiss francs	11.1}	250.3	13.4
Cruzeiros	201.5}		
<i>Portugal :</i>			
Escudos	13.1}	126.0	6.7
Cruzeiros	117.4}		
<i>Sweden :</i>			
Swedish kronor	2.9}	65.0	3.4
Cruzeiros	54.5}		
<i>Argentina :</i>			
Argentine pesos	1.0}	63.1	3.2
Cruzeiros	61.7}		
<i>Netherlands :</i>			
Cruzeiros	56.5	46.5	2.4
<i>Others :</i>			
Cruzeiros	72.1	72.1	3.8
TOTAL	^a	25,136.2	1,342.7

Source: Banco do Brasil, *Relatório de 1950* (Rio de Janeiro), page 162.

^a Conversion rate: 18.72 cruzeiros per dollar.

^b It appears that Canadian investments, having been registered in dollars, are included with United States investments.

^c May include some European and Argentine investments.

^d Total amount registered in cruzeiros was 15,718.5 million.

出所 U. N. Foreign Capital in Latin America, N. Y., 1955, p. 52.

〔7〕 g. 1963年現在の外国投資とラテン・アメリカの対外債務

(1960年価格, 100万ドル)

	外国直接投資	対 外 債 務	合 計
ブラジル	3,950	2,750	6,700
ベネズエラ	5,400	300	5,700
アルゼンチン	1,280	2,250	3,530
メキシコ	1,620	1,650	3,270
チリ	920	1,020	1,940
コロンビア	550	700	1,250
ペルー	680	400	1,080
カリビヤ	50	250	300
パナマ	210	70	280
エクアドル	150	110	260
ドミニカ	150	100	250
ウルグアイ	80	150	230
グアテマラ	160	50	210
コスタ・リカ	90	90	180
ホンジュラス	130	40	170
ニカラグア	50	50	100
パラグアイ	20	30	50
ラテン・アメリカ	15,230	10,100	25,330

出所 CEPAL, *Integración, Sector Externo y Desarrollo Económico de América Latina*. 1966. フルタード邦訳 193ページ.

〔7〕 h. ブラジル主要産業部門における内外資本の割合。—1960年—

諸 産 業	政 府 資 本	ブラジル人 の 資 本	外 国 資 本
繊維部門 ……	—	78%	22%
製 紙 ……	—	85%	15%
製 薬 ……	—	38%	62%
製 鉄 ……	47%	36%	17%
機 械 ……	—	62%	38%
自動車道路 ……	—	43%	57%
自 動 車 ……	—	31%	69%
化 学 ……	10%	53%	37%
プラスチック ……	32%	40%	28%

Serviço Banas, *Capitais estrangeiros no Brasil, 1961*. Lima, *ibid.* p. 403.

〔8〕 a. ラテン・アメリカ諸国の経済部門別就業者数 (1965年現在)

部 門 別	1965 (1,000名)	%	増 加 率 1960 — 1965
合 計	76,416	100.0	2.6
A 農 業 部 門	35,221	46.1	1.6
B 非 農 業 部 門	38,023	49.8	3.2
1. 主要産業及び役務	18,254	23.9	2.4
(a) 鉱 業	753	1.0	2.0
(b) 製 造 業	10,546	13.8	2.1
(c) 建 設	2,969	3.9	2.2
(d) 基幹産業役務	3,991	5.2	3.4
2. 商業, 政府その他役務	19,764	25.9	4.0
(a) 商 業 金 融	7,220	9.5	3.8
(b) 政 府	2,895	3.8	3.7
(c) 各 種 役 務	9,649	12.6	4.2
C そ の 他	3,172	4.1	9.4

資料 ECLA「ラ米経済研究」1967年3月 ラテン・アメリカ協会, 同書. 91 ページ.

〔8〕 b. ラテン・アメリカ7カ国¹および米国における
化学工業の生産構成比較 (1965)

	ラテン・アメリカ(1964)		米 国 (1957)
	F.O.B. 価格 (100万ドル)	%	%
主要有機・無機化学製品	333.4	11.4	17.5
農業用化学薬品	183.7	6.3	3.3
界面活性剤・漂白剤	600.3	20.5	9.8
医 薬 品	449.2	15.4	13.5
爆薬・マッチ・雷管	73.6	2.5	1.4
化粧品・香料・調味料	144.7	5.0	5.0
タール・ピッチ・その他関連副産物	99.4	3.4	2.9
そ の 他	1,040.7	35.5	46.6
計	2,925.0	100.0	100.0

¹ アルゼンチン, ブラジル, コロンビア, チレ, メヒコ, ペルー, ベネズエラ
出所 CEPAL, *La Industria Química Latinoamericana*, 1966.

〔8〕 c. L.A. の近年における成長と停滞（1965）

化学工業の主要品目に関する生産、見掛け消費、生産能力（単位 1,000 トン）

		生産 (1964)	見掛け消費 (1964)	生産能力 (1965)
硫 酸	アルゼンチン	158.4	158.4	220.0
	ブラジル	290.0	290.0	456.8
	コロンビア	38.0	38.0	—
	チリ	167.0	167.0	190.0
	メキシコ	440.0	440.0	665.2
	ペルー	47.4	47.5	78.0
苛性ソーダ	ベネズエラ	51.1	51.2	78.6
	アルゼンチン	63.0	78.9	95.5
	ブラジル	103.0	219.6	144.5
	コロンビア	16.1	43.2	—
炭酸ナトリウム	メキシコ	100.0	124.0	106.8
	アルゼンチン	—	104.1	—
	ブラジル	76.2	82.2	100.0
	コロンビア	8.8	17.5	—
硫酸アンモニウム (20.5-20% N)	メキシコ	106.0	201.0	—
	アルゼンチン	7.6	46.3	13.5
	ブラジル	9.7	153.3	10.0
	メキシコ	167.0	229.8	235.5
過 燐 酸 石 灰 (18-20% P ₂ O ₅)	ペルー	15.8	89.8	17.0
	ベネズエラ	43.3	45.6	—
	ブラジル	251.3	251.3	—
重 過 燐 石 灰 (46-48% P ₂ O ₅)	メキシコ	400.0	400.0	—
	メキシコ	155.0	155.6	170.0
	ベネズエラ	12.6	12.7	36.0
ビスコース	アルゼンチン	15.0	15.0	—
	ブラジル	32.0	32.0	—
	メキシコ	17.0	17.0	—
ポリアミド	アルゼンチン	4.1	4.4	—
	ブラジル	17.0	17.2	—
	メキシコ	3.0	3.0	—
カーボン・ブラック	アルゼンチン	11.3	16.3	13.0
	ブラジル	25.0	27.8	36.0
	メキシコ	13.0	14.8	40.0
合 成 ゴ ム	ブラジル	32.7	29.4	47.5
	アルゼンチン	—	16.8	35.0

出所 CEPAL, *La Industria Química Latinoamericana*, 1966.

C. フルタード、水野・清水訳「ラテン・アメリカの経済発展」, 昭和47年, 144-145ページ.

〔9〕 ラテン・アメリカ諸国のインフレーション—消費者物価指数

(生計費) (年平均上昇率%)

年	アルゼンチン (1)	ブラジル (2)	ボリビア (3)	コロンビア (4)	チリ (5)	メキシコ (6)	ペルー (7)	ウルグアイ (8)	ベネズエラ (9)
1956	13.4	21.1	178.8	5.1	56.0	5.0	5.5	6.7	0.9
1957	24.8	15.9	115.6	15.0	33.1	5.8	7.4	14.7	-2.2
1958	31.5	14.7	2.7	13.1	20.0	11.4	7.9	17.5	4.8
1959	113.7	39.2	20.5	8.5	38.6	2.5	12.7	39.5	5.2
1960	27.3	29.4	11.2	6.1	11.6	5.0	8.6	38.8	2.6
1961	13.5	33.3	7.7	7.8	7.7	1.7	4.5	22.5	-1.9
1962	28.1	48.8	6.0	5.6	13.9	1.0	6.6	10.9	-0.5
1963	24.3	72.4	-0.7	24.5	44.2	0.6	6.4	20.6	0.3
1964	22.1	93.0	10.1	15.7	46.0	2.3	10.5	43.2	1.1
1965	28.6	65.8	2.6	5.5	28.8	3.6	17.0	56.5	2.1
1966	31.9	41.3	7.2	20.4	22.9	4.2	9.4	73.5	-0.2
1967	29.2	30.7	—	8.9	18.1	3.0	—	—	-0.9

(1) 連邦首府

(6) メキシコ市の労働者

(2) グアナバラ州

(7) リマおよびカヤオの労働者

(3) ラ・パス市

(8) モンテビデオの労働者

(4) 平均的消费者に関する全国指数

(9) カラカス市

(5) サンチアゴ市

出所 *Boletín Estadístico*, Instituto Interamericano de Estadística.

C. フルタード、水野・清水訳「ラテン・アメリカの経済発展」昭和47年、116ページ。

〔10〕 最近におけるブラジル実質国民生産の年成長率—部門別

部	門	1921/ 30	1931/ 40	1941/ 47	1948/ 56	1957/ 61	1962/ 67	1968/ 71
農	業	3.4	4.3	3.9	3.9	5.8	3.9	6.3
工	業	3.3	5.2	6.5	8.8	10.7	3.7	12.1
商	業	3.4	4.6	4.7	4.9	7.8	3.4	10.6
運	輸	8.1	5.1	8.5	8.8	8.7	5.6	11.0
通	信							
実	質	3.7	4.6	5.1	6.4	8.3	3.7	9.8
生	産							

出所 Dados da Fundação Getúlio Vargas.

Mario Henrique Simonsen BRASIL-2002, 1972. p. 37.

〔Ⅲ〕 とくに社会経済史の主要文献

——とくにブラジルを中心として——

(1) 入門書—全ラテン・アメリカの一般書（ブラジルを含む）

- (ラ) * ラテン・アメリカ協会編「ラテン・アメリカの歴史」中央公社，1964。
（きわめて平易に書かれた全ラテン・アメリカ史で現在におよぶ）
- * 田中耕太郎「ラテン・アメリカ史概説」上・下，岩波書店，1949。
（やや学術的書）
- * H. Herring, A History of Latin America, N. Y. Knopf, 1962。
（著者は新聞記者で文体は平易であるが，入問書である）
- * F. G. ヒル—G. アンドラーデ，村江四郎訳「ラテン・アメリカ——その政治と社会」東京大学出版会，1971。
（本書は専門書であり，L. A. の政治社会史を要約したものである）
- * ボージュ・ガルニエ—大原訳「ラテン・アメリカの経済」白水社，1960。
（同書は経済的立場から分析したもので，主に現代を対象としている）
- * ラテン・アメリカ協会編「ラテン・アメリカ政治変革の研究」1966。
（これも入問書に属するが，研究は現在に重点がおかれている）
- * E. Lieuwen, Arms And Politics In Latin America (Revised ed), N. Y. 1961。
（L. A. 研究に当って軍部と宗教問題は看過することを許さない。同書はL. A. の軍部の成長過程と両容を分析したものである）
- * W. S. Rycroft, Religion and Faith in Latin America, Philadelphia, 1965。
（宗教と社会を問題とした書）
- * S. ブアルケ・デ・オランダ—池上訳「真心と冒険」新世界社，1971。
（ラテン・アメリカおよびイベリア半島の比較文化論）
- * C. ワグレイ—佐野，クレスポ訳「ラテン・アメリカの伝統」新世界社，1971。
（ラテン・アメリカの人類学的研究で，やや専門書）

(2) 現在の諸問題——専門書

- * プレビッシュ—大原訳「ラテン・アメリカの開発政策」アジア研究所, 1969.
(プレビッシュは現在のラテン・アメリカの要求を代表する学者で、先進諸国にたいし、その政策の矛盾を指摘する)
- * R. Adams (ed), *Social Change in Latin America Today*, N. Y. Harper and Row, 1960.
(同書は米国外交研究団の人々によって書かれたもので、米国の外交政策の誤りを指摘するとともに L. A. の大きな潜在力を示唆する)
- * T. F. Carroll, "The Land Reform Issue in Latin America" in A. O. Hirschman (ed).
(これは開発学者として有名なハーシュマン教授の研究グループに属し、L. A. の大土地制度の歪みを論じ、さらにメヒコを中心とする改革運動を分析したものであり、ブラジル近代論もある)
- * セルソ・フルタード—丸谷訳「ラテン・アメリカ発展と挑戦」新世界社, 1973.
(ラテン・アメリカが米国の帝国主義に激しい反発を示している、必読の書である)
- * V. I. Urquidi, *Viabilidad económica de América Latina, Mexico*, 1962.
(これは南米共同体 LAFTA を中心に、各南米諸国の社会経済構造の相違点を上げ、その統合の困難性を論ずる)
- * C. フルタード—水野・清水訳「ラテン・アメリカ経済発展」新世界社, 1972.
(フルタード教授の近著で初版は1969; 最近の L. A. の動向、変化また発展を考察せんとする、必読の書である)
- * E. De Vries & José M. Echavarria, *Social Aspects of Economic Development in Latin America*, Mexico City, 1960, UNESCO, 1960.
(国連のユネスコによる1950-1960年代の L. A. の実態的経済分析書)
- * W. Baer and I. Kerstenetzky, *Inflation and Growth in Latin America*, Yale University, 1964.
(1930年代より急速にインフレ化した L. A. を実証的に分析、研究した書であ

って、L. A. のインフレ問題を研究するには必読書といえる)

* H. S. Ellis (ed), *Economic Development for Latin America*, N. Y. 1962.

(同書は米国経済学会の長老エリス教授を司会とする研究グループの労作である)

(3) 各国史——とくに南米諸国とその母国スペインおよびポルトガル関係(再録を含む)

(西) * 井上幸治編「南欧史」—(世界各国史, 第五巻) 山川出版社, 1957.

(これは主にスペイン, ポルトガル同王国の絶対主義時代を対象に書かれたものである)

* C. Perez Bustamante, *Compendio de Historia de España*, 7a. ed. 1962.

(同書はマドリッド大学のスペイン史の教科書である)

* J. Vicens Vives, *Historia de España y America*, 5 Tomos, 1961.

(著名な歴史学者 Vives 教授の指導および司会のもとにつくられた書であって、単なる政治、また社会史ではなく広く人民の立場において書かれた名著である。ただ、その総ページが約1672ページにのぼり読破するにはかなりの時間がかかるが、新しい歴史書として必読書といえる)

(葡) * A. G. Mattos, *História de Portugal*, 2 Tomos, 1939.

(一般ポルトガル史としてもっとも普及している標準書)

* J. L. De Azevedo, *Épocas de Portugal Económico*, 1929.

(近世ポルトガルにおいて非常な活動と指導力を発揮した Pombal 侯を中心に、その経歴史的変革を取り扱ったもの)

* A. M. Afonso, *Curso de História da Civilização Portuguesa*, 7a. ed, 1968.

(もっとも平易にポルトガル文化史をまとめたもので、上古代より 1938 年迄を概観する)

* アンドウ・ゼンパチ「ブラジル史」河出書房新社, 1959.

(日本人によって書かれた唯一のブラジル文化史)

* P. Calogeras, *Formação Histórica do Brasil*, 4a. ed., 1938—(tra). P. A. Martin, *A History of Brazil*, N. Y. 1939.

(ブラジル史のもっとも代表的書)

- * P. Calmon, *História Social do Brasil*, 2 Tomos, São Paulo, 1937-39.
(書名の如く、ブラジル史をその社会構造面から観察したもの)
- * O. Ianni e Outros, *Política e Revolução Social no Brasil*, Rio de Janeiro, 1965.
(同書は有名な社会学者 Ianni 教授を中心に 1930 年代—1960 年代のブラジル社会、政党、軍部の動きを分析した書)
- * J. M. Bello,—(tra) *A History of Modern Brasil, 1889-1964*. Stanford Univ. Press, 1966.
- * E. B. Burn, *A History of Brazil*, N. Y. 1970.
(上記の二書はいずれも現代のブラジル史を分析したもの)
(ブラジル以外の諸国)
- * A. Cortese, *Historia económica Argentina y Americana*, Buenos Aires, 1962.
- * W. H. ハドソン—寿岳訳「はるかなる国、とおい国」岩波文庫, 1937.
- * 中川文雄「ラ・プラタ諸国の近代化」ラテン・アメリカ協会.
- * L. ヒューパマン, P. M. スウィージ—池上編「キューパー一つの革命の解剖」岩波新書, 1960.
- * R. J. Alexander, *The Bolivian National Revolution*, N. J. 1958.
- * Fals—Borda, *Peasant Society in the Colombian Andes*, Gainesville, 1955.
- * F. A. Encina, *Resumen de la Historia de Chile*, 3 vols. Santiago, 1945-55.
- * A. ピント—吉田, 丸谷訳「チリ経済は失敗したか」新世界社, 1973.
(社会経済史的研究)
- * H. B. Parkes, *A History of Mexico*, Boston rev. ed. 1950.
- * J. S. Herzog, *Breve Historia de la Revolucion Mexicana*, 2 Tomos. 2a ed. Mexico, 1960.
- * H. F. Cline, *The United States and Mexico*. Cambridge. Mass. 1953.
- * 増田義郎「メキシコ革命—近代化のたたかい」中央新書, 昭和 43 年 (1968).
(Herzog とこの書はいずれも、メヒコの古代化→スペインによる征服→土地経済の変化, 労働問題→独立→近代化への挑戦を要約し、とくに 20 世紀の 1917 年の画期的「ケレタロ憲法」の成立期を主に分析したものである)

(4) ブラジル社会経済史および現在の開発問題——専門書

- * Roberto. Simonsen, *História econômica do Brasil*. 5a. ed., São Paulo, 1967.

（同書はブラジル社会経済研究—ただし専門として—まず第一にあげられを必読書であり、このシモンセン教授の著書によってブラジル社会経済史学が創設されたとまでいわれている。ただ惜しむらくは研究対象が1500-1822のポルトガル植民地時代の分析に限られた点である。なお初版は1937年である）

- * C. プラド Jr.—山田訳「ブラジル経済史」新世界社, 1972.

（同書はシモンセンの経済史研究を現在まで引き延ばすとともに、史観として唯物論をもってし、今日まで12版を重ねた重要文献である）

- * C. フルタード—水野訳「ブラジル経済の形成と発展」新世界社, 1971.

（同書もブラジル経済史といえるが、プラド教授とは対照的に近代経済理論を基盤に分析した書である。なお、これは多くの外国語に訳されている）

- * H. F. Lima, *História Política—Econômica e Industrial do Brasil*, São Paulo, 1970.

（さきのプラド教授の唯物史観をさらに徹底せしめるとともに、英—独の経済史家の名著をも参照し、近代ブルジョア企業家の擡頭を中心にブラジル経済史の動向を世界史的立場から分析した今日の必読書である）

- * P. Singer, *Desenvolvimento Econômico e Evolução Urbana*, São Paulo, 1968.

（同書は現在ヨーロッパあるいは米国の経済史学会が取り組んでいる諸都市の発展—近代ブルジョアの誕生の点まで立ち帰って、改めてブラジル経済史の動きを研究せんとしたものである）

（現在の開発問題の諸論文）

- * H. Bastos, *O Pensamento Industrial no Brasil*, São Paulo, 1952.

- * H. Jaguaribe, *Desenvolvimento Econômico e Desenvolvimento Político*, Rio de Janeiro. 1962.

- * E. Gudín, *Análise de Problemas Brasileiros. 1958-1964*, Rio de Janeiro, 1965.

- * W. Baer, *A Industrialização e O Desenvolvimento Econômico no Brasil*, Rio

de Janeiro, 1966.

* N. H. Leff, *Economic Policy-Making and Development in Brasil-1947-1964*, N. Y. 1968.

* N. H. Leff, *The Brazilian Capital Goods Industry-1929-1964*, Cambridge, 1968.
邦訳あり。

* N. Fidelino de Figueiredo. *A transferência de tecnologia do desenvolvimento industrial do Brasil*, Rio de Janeiro, 1970.

* Mário H. Simonsen, *Brasil 2002*. (1a. ed.,) Rio de Janeiro, 1972.

(現在もっとも注目されている書で、金融的立場から論じたものである)

(5) その他ブラジルに関する参考書あるいは古典的名著

G. フレイレー山下訳「熱帯の新世界—現在ブラジル文化論」東京農林水産生産性向上会議, 1961.

T. L. スミス—井上訳「ブラジル—住民と制度」東京農林水産生産性向上会議, 1962.

L. ウェィベル—小沢訳「南ブラジルにおけるヨーロッパ人植民」同上会議, 1962.

* C. ワグレイ—小野・野口共訳「アマゾンの町」新世界社, 1973,
(アマゾン関係の文献中で、現在もっとも高い評価を得ている)

* 石川達三「日本の移民」

* G. Freyre, *Casa Grande e Senzala*, 2 Tomos, 11a. ed. Rio de Janeiro. 1964.
(tra) by S. Putnam, *The Master and the Slaves*, N. Y. 1946.

* C. R. Boxer, *The Golden Age of Brazil, 1695-1750*, University of California. 1964.

(6) 社会主義運動

* L. M. Ribas. *Movimientos Revolucionarios*, Venezuela, 1940.

* R. J. Alexander, *Communism in Latin America*, New Brunswick. N. J. 1957.

- * Empresas Políticas, El Comunismo en la America Hispana, Madrido, 1961.
- * Deutsche Aussenpolitik, Gegenwarts-probleme Lateinamerikas,—Sonderheft II/1951, Berlin (東), 1961.
- * A. L. Palacios, Nuestra América y el Imperialismo, Buenos Aires, 1960.
- * P. バラン著浅野・高須訳「成長の経済学」（同書はマルクス立成的立場から書かれたもので、そのスペイン語訳はラテン・アメリカ史料の主要参考書となっている）

(7) 諸統計および専門雑誌——ブラジル関係

- * Fundação Getúlio Vargas, Conjuntura econômica. (月刊)
 - * Conselho Nacional de Estatística, Anuário Estatístico do Brasil. (毎年)
 - * Universidade de São Paulo, Revista de História. (年三回) など.
 - * Nôvo Dicionário de História do Brasil-Illustrado, Departamento Editorial das Edições Melhoramentos, 2. a ed. São Paulo, 1971.
- ラテン・アメリカ協会「ラテン・アメリカ時報」旬刊